

ご注文の際、プライス・コードもご記入下さい。
プライス・コード{a ¥ 1 6 9 0/A ¥ 1 8 9 0/B ¥ 2 0 9 0/C ¥ 2 2 5 0/D ¥ 2 4 9 0}
(表示価格は税抜き) 別途消費税が加算されます

www.tambourine-japan.com email: song@tambourine-japan.com

注文方法サイト: <http://www.oct-net.ne.jp/tambouri/order.htm>

クレア地方の音楽 (P49)

[Single CD/ I R E L A N D]

- *DOLORES KEANE:Lion In A Cage ¥150
(大安売り。“Lion In A Cage”{Lion Mixウヴァージョン}, “Heart Like A Wheel”, “Lion In A Cage”{7” Mixウヴァージョン}の3曲収録。1989作。Ringsend Road)

[CD+CD-ROM/ I R E L A N D]

- *AMHRAN IS FICHE DON NOLLAIG ¥4190
(CD と CD-ROM の一枚セット。CDプレイヤーにかければ CD で、パソコンに入れば CD-ROM。CD はアムランの Mairead Ni Mhaonaigh とシェイマス・ヘグリーの妹の Meabh Ni Bheaglaoich と Liadan の Sile Denvir の三人の女性シンガーによる 21 曲収録のアムラントの伝統的クリスマス・ソング集。ゲール語地域の異なる三人の歌姫の唄は、全曲ギターのための伴奏付きで、全曲それぞれの地域のゲール語。シンキングはシングルそのもの。それ故にそれぞれの歌姫のシンキングの味わいがストレートに味わえる。CD-ROM はゲール語の歌詞{印刷可}、英語の歌詞{印刷可}、カラオケでの唄のレッスンなど。尚、視聴した盤は CDプレイヤーでは最後の数曲で各 1、2 回音飛びしました。パソコンでは音飛びはありませんでした。CDプレイヤーで聴くことを前提にしていけないのかも。2009 作。Fios Feasa)
- *AMHRAN IS FICHE EILE ¥4190
(上記 CD と CD-ROM の一枚セットのシリーズの前の作品。Eilis Ni Chinneide と Aoife Ni Fhearraigh と Caitriona Ni Cheannabhain の三人の女性シンガーによる 21 曲収録のアムラントの伝統歌集。ゲール語地域の異なる三人の歌姫の唄はそれぞれの地域のゲール語。2007 作。Fios Feasa)

[CD+BOOK/ I R E L A N D]

- *PETER CONLON:The Genius Of ¥2850
(アムラントからニューヨークに移住し、1917 年のレコーディング・デビューを皮切りにアメリカで活躍したメロディオン奏者 Peter J Conlon{1885-1954}の演奏集の 2 枚組 CD と彼の人生やレコーディング記録などをまとめた本{P44}のセット。彼のエキサイティングな演奏は彼の演奏に憧れる演奏家を生んだという。SP 盤からの全 47トラック。2012 作。OTR1040TR105)

[CD/ I R E L A N D系]

デジパック・タイプを含め、元々開封されているものが多数あります。

- *USHER'S ISLAND:Usher's Island C
(2015 年の一月に最初のコンサートを行って以来、コンスタントに

グループ活動をしている Andy Irvine, Dónal Lunny, Paddy Glackin, Mike McGoldrick, John Doyle から成る“Usher's Island”のデビュー作。「どうせ寄せ木細工のような音楽だろう」と思って聴いたら、おっとどっこい、三分の二を占める Andy Irvine と John Doyle のそれぞれのシンギングをフィーチャーした歴史ドラマ的な唄ものは、どの唄もそれぞれに面白く味わいが深い上に、バンドとしての一体感があって、ほほえましいというか、心身からウォーム・アップするような心通う温かさみなぎっているし、Andy がもの凄くノッテルのが、弾むシンギングからビンビン伝わってくる。クラダリングを開発した金細工師の Richard Joyce [1660-1737] の物語“Heart In Hand”が楽しい。Andy のハーモニカのイントロで John がうたっているのだが、クラダリングが生まれるのにアルジェリアの海賊が関わっていたということを今、初めて知った。インスト曲はわざと渋い曲もあるし、Mike が活躍するカッコイイ曲もある。本作を聴いて、彼らが自分達のささやかだが、ハイグレードな楽しみのために忙しい時間をさいて集まっていることが分かった。Mike が John Blake から教わったという渋いリール曲で幕を閉じる構成も憎い。2017 作 Vertical)

*SHARON SHANNON: Sacred Earth

B

(2007 年の“Renegade”以来の付き合いのアフリカン・スタイルの英国人ギタリストの Justin Adams を共同プロデューサーに迎えて制作された S. Shannon の新作は、「ここまでやるの?!」と、西&東アフリカ音楽っぽいのもロックっぽいのもザディコっぽいアコの演奏なんかを聴いて、つい思ってしまうが、よくよく聴くと、アコが飛び切りの雑多な音色とリズムでアイリッシュしているのが分かる。中にはホロリとさせられる泣きのアコ演奏もある。「アイリッシュの可能性を広げる音楽」でもあろうが、その前に S. Shannon の異種な音楽家とアイリッシュして音楽を楽しむ姿勢が清々しいし、その清々しさが音楽にもバッチリ表われている。音楽は楽しまななきゃ損。2017 作。Celtic Connections)

*MOYA BRENNAN: Canvas

B

(ご存じ Clannad の Moya の新作。本作は昨年 90 歳で亡くなった Moya の父の Leo に捧げられたもので、Moya の幽玄な美学、ここに極め盛り！の感を抱く終始鎮魂の祈りのように厳かな Moya のシンギングと Moya 流のケルティック・サウンドに覆われている。シンギングもサウンドも「アコースティック」とは異質な機械的に創られた音楽のアート。そのアートが聴き手の心を動かす。大河のようにゆったりと流れるケルティックなサウンドの流れの中で、Moya の声は終始、雅でに奥ゆかしい。中でも、戦禍で犠牲になる子ども達に寄り添う唄“Children Of War”は、深く感動させずにはおかない。加えて、10 曲目の Cormac De Barra のハーブを伴奏にした“Where You Belong”からハーブをフィーチャーしたラストのかすかにハミングの入る“Banrion”へと続く二曲は、まるでメドレーのような流れで、その曲のスピリチュアルな美しさは、もう息も止まりそうになってしまう。2017 作。Beo)

*MOYA BRENNAN: Heart Strings

B

(Clannad の Moya の本作は Clannad 的優美さや夢幻さが漂うケルティック・アルバム。Moya のもとに集まったケルトの音楽家は、Fionan De Barra{ギター}、Gormac De Barra{ハープ}、Paul Byrne{バウロン、ドラムス}、Eamonn Galldubh、Sinead Madden{フィドル}、Sam Jackson{キーボード}、Yoshinobu Izumi{ベース}の7名。全14トラック。2008作。オランダ MW)

*AMY McALLISTER:String On String B

(トラッド&フォーク・タイプのアイリッシュ・シンガーとしてもハープ奏者としても才能のある北アイルランドのアントリムのアイリッシュ・ハープ奏者でシンガーの Amy 姫のデビュー・アルバム。シンガーとしては Cara Dillon 風に魅惑な上に、ハープ奏者としてはハープの硬質の音色が冴えた優美で気品あるハープ・サウンドを見事に爪弾き出していて、耳にすこぶる新鮮。ハープ・ソロでも相当なアルバムが出来そうだが、本作は彼女のシンギングを中心にした構成で、ハープとギターを中心にした伴奏で、Cara Dillon や Planxty などでお馴染みの“P Stands For Paddy, I Suppose”や“Bonny Blue-Eyed Nancy”などのアイリッシュや胸キュンな自作曲をケルティックに？素敵にうたう。ハープをフィーチャーした曲が四曲ある。三つのタイプのアイリッシュと個人的に大好きな Catriona McKay 作の“The Swan LK243”を見事に演奏しきっている。2017作。Amy McAllister)

*DAMIEN McGREEHAN:The Tin Fiddle A

(ドニゴールのフィドル・トリオ“Fidil”のメンバーの Damien の初ソロ。本作を聴いて、先ず器の大きな天才フィドラーだと思った。半数を占めるドニゴールの伝統音楽を演奏すれば、その心まで表現出来てなかつオリジナル曲では、フィドルを打楽器としても操って、創造性豊かなフィドル・ミュージックを演奏し、スコットランドやジブシー音楽までも絶妙にやってのけてしまう。弓先に込めたデリカシーは Martin Hayes 並み。他のフィドラーとは比較出来ない精神性の高さと演奏技術の高さと創作力の豊かさを見せてつけている。本作は Peadar McGeehan{1915-2013}に捧げられている。2016作。Damien McGeehan)

*NOEL HILL:Live In New York B

(両親も祖父母もコンサーティーナ奏者だったというアイルランド随一のコンサーティーナ奏者の Noel Hill の新作は、ニューヨークでのライブ。本作は“Irish Concertina”シリーズの第三弾ということだが、本作は後世に伝える価値の充分にある生きた伝統的コンサーティーナ音楽となっている。クレアのコンサーティーナと言うと、牧歌的なイメージを持ちがちだが、レパートリーの引き出しを多く持つ Noel の演奏は、時代も曲調も様々で、様々な表情のクレアを中心にしたアイリッシュ・ミュージックを楽しませ、舌鼓を打たせる。音の魔術師と思ってしまうほど。演奏中、観客が身じろぎもせず聴き入っている空気感が、Noel の神がかった演奏とともに伝わってくる。2016作。Raelach)

*DAN BROUDER & ANGELINA CARBERRY:A Waltz For Joy B

(若きアコーディオン奏者の Dan Brouder と伝統音楽一家 Carberry 家の、現在活躍中のバンジョー奏者の Angelina Carberry のお二

人による新作は、アルバム・タイトルそのままというか、「お楽しみ会」的というか、何ともゆるーく、のほーほーんなアイリッシュのオンパレード。事実上音楽は、Brian McGrath{ピアノ、バンジョー}、Johnny McDonagh{ハカウツ}、John Blake{ギター}、Brian Mooney{フズキ}、Ruairi McGorman{フズキ}を含めたセッションだが、セッションのペースは、Dan&Angelina 主導のペース。皆さんの、ゆるくって、響き合うアイリッシュに、すっかり病みつき。心ニコニコ。2017 作。Brouder and Carberry)

*ORLA FALLON: Sweet By And By G
("Celtic Woman"の歌姫 Orla の新作は、「500マイル」や「テネシーワルツ」や「ラブ・ミー・テンダー」やフォスターの"Hard Times Come Again No More"などケルティックな叙情が香るフォーク・ソング集。彼女のそよ風吹くシンギングと軽やかなアイリッシュ・フォークなサウンドは、たただ心地よい。すべてかエヴァーグリーンな輝きのあるフォーク・ソング。すっかり夢見心地。w. Feargal Murray, Ewan Cowley, Lynda O' Connor, Joe Csibi。2017 作。Orla Fallon)

*THE TRUCKLEY HOWL: The Truckley Howl G
(Téada の John Blake{ギター、フルート、ピアノ}と Chulrua の Nathan Gourley{フィドル}とスライゴ出身でコンサーティナーのオール・アイルランド・チャンピオンの Mairéad Hurley{コンサーティナ}のトリオによるアイリッシュの何と粋で清々しくて、楽しいこと！曲目は地域も新旧も様々だが、Nathan のフィドルと Mairéad のコンサーティナーによる阿吽の演奏は、自由に飛び回る二羽の蝶のように軽やかで、多彩なリズムが連なって、スパイラルなメロディを創り出して、それに John のギターが楽しげなリズムが入って、Truckley Howl スタイルとでも呼ぶべきアイリッシュ・ミュージックを創作している。必死感が感じられないというか、さらりと演奏してしまってる感じがとても快い。天下一品。2016 作。Truckley Howl)

*FASTA: Un Canadien Errant B
(カナダの"Traditional Singer of the Year"賞受賞のケベックの女性トラッド・シンガーでフィドラーの Sophie Lavoie とケベックのギタリストの André Marchand とコネマラ出身のアイルランド人イリアン・パイプス&バンジョー奏者の Fiachra O'Regan のトリオ。ケベックのトラッドとアイリッシュが混ざり合った音楽の意外に新鮮で爽快なこと！Sophie のシンギングとフィドルはケベック・トラッドの伝統の味わいを披露しつつも、音楽はアイリッシュのノリを混ぜ合わせていて、例えば、100 年、200 年前、カナダに移り住んだフランス&アイルランド移民が互いの音楽を持ち寄って、楽しんで創り上げた音楽のような、凄く魅力的で心に響いて、楽しめる音楽。Sophie さん、大好きな"Un Canadien Errant"をうたってくれてありがとう！2016 作。Fasta)

*DEIRDRE STARR: Between The Half Light B
(ロンドン生まれのアイルランド人女性トラッド・シンガーの Deirdre の通算五枚目の本作は、妹の Eileen Starr {1967-2013} に捧げられたもの。アイルランドとイングランドのトラッド/バラッ

ドを半々に Ewan MacColl の“Sweet Thames Flow Softly”と自作曲
一曲による本作は、Deidre のシンギングも自身のピアノの音色も
終始、哀しみの色で彩られていて、心に深く沁みる奇跡の逸品。

2016 作。Sloanstarrstateofmind))

*TERENCE WINCH, MICHAEL WINCH AND JESSE WINCH

:This Day Too

B

(副題“Music From Irish America”。Terence Winch と Jesse Winch
は、1977 年に Green Linnet から鮮烈アルバム・デビューした Celtic
Thunder の創設者でオリジナル・メンバー。本作は Terence の息子で
アイリッシュ・フィドラーの Michael を加えたトリオとアイリッシュ
仲間達 {Zan McLeod, Brendan Mulvihill 他} とによる奇跡のアイ
リッシュ・ミュージック。アットホームなセッションとして楽しめる
上に、ウィンチ家が受け継いできたアイリッシュ・ミュージック
の味わいも音楽やシンギングから醸し出されていて、味わいが深
い。また、Celtic Thunder のメンバーでヴォーカルだった Nita
Conley Korn と Nita の娘の Eileen Estes の優しいシンギングが花
を添えている。2017 作。Celtic Thunder Music)

*ZOE CONWAY AND JOHN McINTYRE:Live In Concert

B

(屈指のフィドル奏者の Zoë Conway と Zoëのご主人でギター奏者の
John McIntyre による本ライブ盤は、優れたアイルランド音楽のと
びっきりなライブを見せられた気分。本作は 2016 年に夫妻が行っ
たドイツ・ツアー音源からの全 13 トラックだが、様々なリズムと色
々なトーンで魅了する Zoëのアイリッシュ・フィドルは正に絶品で、
加えて、Clannad でおなじみの“Dúlamán”など三曲でヴォーカルを披
露する Zoëの清々しくも哀調を帯びたシンギングも、これまた絶品。
ご主人の John のギターは縁の下の力持ち的にあの手この手で支え
ていてお見事。2016 作。Zoë Conway&John McIntyre)

*MICHEAL DARBY Ó FATHARTA:An Rithim Réidh

B

(コネマラのメローディオン奏者の Mícheál Darby のおそらく二枚
目。アルバム・タイトルは「安定したリズム」というような意味らし
い。これはずばり中身を言い表している！と思ってしまうほど、
彼の演奏は繰り返しのリズムに安定感が感じられて、例えば、列車
に乗っていて、ウトウトしてしまうように心地よい。選曲はオー
ル・アイルランド的範囲だが、たいていはその昔聴いたアルバム
からの好みの曲を「ふふふ」と悦に浸って演奏しているかのよ
う。フトコロの深いアイリッシュ・ミュージックだ。ゲール語と英
語で曲目の解説がされている。w. Donogh Hennessy {Lúnasa},
Muireann Nic Amhlaobh {Danú}, Trevor Hutchinson {Lúnasa},
Dessie Kellehe。2017 作。Mícheál Darby Ó Fatharta)

*KILA:Alive

B

(現在 8 人編成の Kíla のライブ。彼らが 2015 年と 2016 年に行ったラ
イブの音源から選りすぐりを集めたもの。アイリッシュを土台に
ワールド・ミュージックやロック的センスを果敢に注入すること
で、独自のアイリッシュ・ミュージックを創作してきた彼らだが、
本ライブは彼らが挑戦してきた Kíla 流のアイリッシュな音楽が
はじめていて、圧倒される。キーラのサタデーナイト・フィーバー！

2016 作。Kila)

*LAOISE KELLY & TIARNAN O DUINNCHINN

:On The Shoulders Of Giants B

(アイリッシュハーブ奏者の Laoise Kelly の本作は、北アイルランドと接するモナハン出身のイリアンパイプ奏者で Seán Ó Riada Gold Medal 杯優勝者 Tiarnán Ó Duinnchinn を相方にしたデュオ・アルバム。1965 年代に出版されて広く知られるようになったダンス曲“O’ Sullivan’s March”で軽やかにスタートする本作は、地域的にはドニゴールの曲が多めだが、アイルランド各地とスコットランドの古い伝統曲などを瑞々しく演奏する。メロディー役のパイプはリズムカルでもあって、Laoise の得意のリズムカルなハーブとの軽やかにスパイラルを描く二重のサウンドは、心ウキウキさせられる。2016 作。Laoise Kelly agus Tiarnán Ó Duinnchinn)

*JOHN & MAGGIE CARTY: Settle Out Of Court B

(John Carty {フィドル、バンジョー} が John の娘の Maggie Carty {バンジョー、キーボード、ヴォーカル} に最初に教えたというバンジョーの曲“Paddy Hayey”で幕開けする父娘の本作は、フィドルとバンジョーの演奏で、時と場所を超えてアイリッシュ・ミュージックを旅する気分。場所はロンドンだったり、1920 年代の米国だったりもする。娘の Maggie が 4 曲でうたっている。アイルランド民謡が 3 曲とイエーツ詩の「サリーガーデン」。野の花的な素朴なシンギングが心にスツと響く。アイリッシュの酸いも甘いも知った人、ニコニコ保証。w. Shane McGowan {ギター}, Dónal Lunny {ブラス、ギター、バウロン}。2016 作。Racket)

*KEVIN BURKE & JOHN BRENNAN: The Pound Ridge Sessions B

(Kevin Burke と米国西海岸のロック・ギタリストの John Brennan によるアイリッシュとロックを二人のセンスでまぜこぜにした異色のアイリッシュ風ロック。セッション感覚の自由さがあって、お互いが未踏の境地を楽しむかのよう。たぶん二人ともほろ酔い気分かな? Allman Brothers の“Jessica”や Jimi Hendrix の“May This Be Love”なんかも夕暮れのひととき気分です。ゲスト: Winifred Horan, Eamon O’ Leary, Mike McGoldrick, Nuala Kennedy, Johnny Connolly ほか。2016 作。Loftus)

*AIDAN COFFEY WITH FRANKIE GAVIN, ALEC FINN

& COLM MURPHY: The Corner House Set B

(「デ・ダナンより良い!」と評判。シュリーヴ・ルークラの音楽を中心にした選曲の良さもさることながら、アコとブズーキの締まったリズムがベースになっていて、Frankie のフィドルも締まって、フィドルの良さが凝縮した感じだ。お年寄りばかりなのに、音楽は青春真っ只中。2016 作。Riverboat)

*CELTIC FIDDLE FESTIVAL: Live In Brittany B

(2013 年 1 月にブルターニュで行われた結成 20 周年記念のライブ。Kevin Burke, Kornog の Christian Lemaître {ブルターニュ}, La Bottine Souriante の André Brunet {ケベック} のフィドル・トリオのブルターニュのギター奏者 Nicolas Quémener を加えた本作はブルターニュ色と東欧色が入り交じったケルティック・フィド

ルで幕開けし、あの手この手、趣向を凝らしたブルターニュ〜アイルランド〜ケベックのケルティック・フィドルを堪能させる。形態は違うが、ある種 Battlefield のように音楽で泣き笑いし、気分良く踊らされもする。(Loftus)

*PAUL MORAN: Moran's Fancy

B

(Fergal Scathill との二人組で知られるゴールウェイのパブ「クレインバー」を拠点に活動するトラッド・シンガーで、ハーモニカ奏者でダンサーの Paul Moran の多才で多彩な魅力の詰まったソロ・アルバム。Frank Harte を敬愛するという彼のリルティングを含むシンギングは、柔和なシンギングで魅力的だし、自身のハーモニカと Fergal のフィドル又はギター又はパウロンのデュエットはカッコいいし、ダンスのステップまでやってのけてしまうのだから、これはマジックとしか思えない楽しさ。お楽しみ満載の全 15 トラック。2016 作。Paul Moran)

*CRISTY MOORE: Lily

A

(Christy Moore の新作は、Christy の友達シンガー作曲の思い出の唄を、その唄をギターで弾き語りを中心に、その思い出を振り返りながら、懐かしみ、楽しみ、そして噛みしめるようにうたったもの。ある種子守歌のようにも聞こえる穏やかな唄の数々だが、耳を澄ませば、シンギングもサウンドも表情がすこぶる豊か。静かに耳を傾けたい 71 歳の Christy Moore 翁の天下一品の名品。w. Declan Sinnott, Jimmy Higgins, Seamie O' Dowd, Mairtin O' Connor, Cathal Heyden, etc. 2016 作。Columbia)

*LIZ CARROLL: On The Off Beat

A

(Solas の Seamus Egan をプロデューサーに迎えて 2013 年に制作されたアイリッシュ・フィドル名手の L. Carroll の本作は、Beoga の Seán Óg Graham{ギター}と Lúnasa の Trevor Hutchinson{ベース}を加えたトリオ中心の編成で、あの手この手、ゆるいのはやいのチョーはやいの、大技小技、何でもやってのけて、お次の曲お次の曲と身を任せているだけで、チョー至福。助っ人ミュージシャンは、Seamus Egan, Winifred Horan, Natalie Haas, Catriona McKay。2013 作。Liz Carroll)

*TOMMY PEOPLES: Recorded At Fiddle's Hearth

C

(呼吸困難の症状で現在酸素吸入器が欠かせない生活を強いられている Tommy Peoples の 2005 年のライブ。場所は米国インディアナの "Fiddle Hearth" というパブ。2005 年といえば "Waiting For A Call" の二年後。実演で腕に染み込ませた豊富なレパートリーの引き出しの中から、思いつくままに即座に曲を選んで演奏しているかのような音楽の自由さと孤高さは、まるで草原を自由に飛びまわる野鳥のよう。彼のフィドル演奏はライブでなきゃ!と思うことしきり。全 35 曲の 16 トラック。Tommy Peoples 氏のサイン入。2016 作。Tommy Peoples)

*SEAMUS SANDS: Across Bridge

B

("Traditional Fiddle Playing" の副題が味わいを増す何とも生真面目で、美しい伝統的なフィドル音楽なのだろう。伝統一家の物語は祖父母の代から始まる。Seamus は一家の暮らしの中で親しんで

きた思い出の音楽1曲1曲を、まるで1曲1曲を誰かに捧げるかのように奏でている。まるで家族以外に影響を受けた演奏家として、Paddy Ganny, Paddy Carty, Ben Lennon, Junior Crehan 等などの名を上げている。自然なリフト感のあるリラックスした演奏は彼らの美点を受け継ぐものだろう。“A superb album”とは“BBC Radio Ulster”。2016 作。Seamus Sands)

*PATSY O CEANNABHAIN: Fear Muinte Manla G
(コネマラの Patsy は他のシャン・ノース・シンガーから敬愛されるシャン・ノース・シンガーの中のシンガー。本作は全て無伴奏シンギングだが、清澄なシンギングの数々は見事としか言いようがない。ラーサリーナでお馴染みの“Bean Phaidin”をラーサリーナのシンギングと聴き比べてみるのも楽しい。2008 作。
Clo Iar-Chonnachta)

*BUA: An Spealadoir A
(米国の大型アイリッシュ・バンド。ゲーリック・シンガーの Brian O hAirt のシンギングはヴォイス・コントロールが見事で、特に静寂な味わいのシンギングはダントツに素晴らしい。加えて、フルート、フィドル、ブズーキ、イリアンパイプス、ギター、ホイッスル、バウロン、ギターなどによるアイリッシュは天下一品。ゲスト: Deirdre Scanlan{Solas}。2008 作。Mad River)

*THE GLOAMING: 2 B
(Martin Hayes, Dennis Cahill, Ialar O Lionaird, Gaoimhin O Raghallaigh, Thomas Barlett から成るスーパー・アイリッシュ・グループの Gloaming の二枚目。本作は Martin Hayes のアイリッシュの格調版というか、Martin の音楽の揺らぎのあるアイリッシュ・フィドルの高揚感をカラフルに彩ることで、さらに追求した音楽。基本は Martin が奏で続けるアイリッシュ・ダンスなリズムの心地よい波のような音楽。その波のような音楽は、時にハーモナイズして、この上なく心地よい。2016 作。Real World)

*RUNA: Live A
(米国人アイルランド人混成のアイリッシュ系バンド、Runa の待望の五枚目は、ライブ。メンバーは変わらず Shannon Lambert-Ryan {ヴォーカル、バウロン}, Fionan de Barra {ギター、ヴォーカル、ベース他}, Cheryl Prashker {ハーモニカ}, Dave Curley {マンドリン、ヴォーカル、バウロン}, Maggie Estes White {フィドル、マンドリン} の二姫三太郎五名。本ライブでは、彼らの昇り竜の勢いに溢れていて、天才的レベルの Shannon の最高のシンギング共々、音楽が輝いている。彼らのアイリッシュは雑食性があって、その雑食感が彼らの独自性を生み、音楽のパワーの源にもなっている。すべてがプロ中のプロの音楽パフォーマンスを誇っている。今、最も勢いのあるアイリッシュ系バンド。
2016 作。Runa Music)

*MARIE AGUS SEAMUS BEGLE Y: Plancstai Bhaile na bPoc B
(Máire & Séamus Begley の兄妹{姉弟?}による1989年のアルバムがCD復刻。Máire & Séamus のデュエットのあるが、大半は Séamus Begley のゲーリック・シンギングとアコーディオンの演奏を中心にした構成で、今と変わらない滋味豊かな Séamus のシンギングと

ダンスの空気いっぱいのアコの演奏が楽しめる。ゲスト:Steve Cooney.1989/2016 作。Gael Linn)

- *SHARON SHANNON:The Diamond Series Box Set ¥2890
(クリスマス・プレゼント用に製作された“Sharon Shannon”, “Out The Gap”, “Each Little Thing” 3 枚組ボックス・セット。2007 作。Daisy)
- *SHARON SHANNON:Spellbound a
(未発表音源 6 曲を含む 21 曲入編集 CD。98 作。Grapevine)
- *FOUR MEN & A DOG:And The Band Played On C
(Cathal Hayden{フィドル}, Stephen Hayden{フィドル、バングジョー}, Gino Lupari{バウロン、ヴォーカル}, Kevin Doherty{ギター、ヴォーカル}, Donal Murphy{アコ}というラインナップの Four Men の結成 25 周年記念盤。記念盤ということで気合い十分の彼ら本来の怒濤のというか、エネルギー溢るアイリッシュを堪能させる一方で、これも記念盤ということで、ヴォーカルの Kevin Doherty の趣味{The Band の大ファン}の SSW/ルーツロック{The Band の“Shapes I’m In”をやっています!}も加わって、アイリッシュの嵐の中に米国音楽を紛れ込ませる構成。アイリッシュでも、米国ロックでも、ルーツ志向の太っ腹で醍醐味のある土臭い音楽で圧倒する。2016 作。HOOK)
- *FROMSEIER ROSE:Contradiction B
(スコットランドやアイルランドのフィドル音楽に影響を受けたという女性フィドラーの Fromseier Rose と米国人ピアニストの Michael Rose の二人組。Michael は縁の下の力持ちというか、脇役的立場で、主にアイルランドとスコットランドの曲を Fromseier は、優美に晴れやかに演奏する。女性的というか、ヨーロッパ的というかトラッド的な土臭さが薄いのが、清々しい。そんな中、アイリッシュ・シンガーの Niamh Parsons が三曲で、見事なシンギングを披露し、釘付けにする。限定再入荷。Fromseier Rose)
- *JOSIE NUGENT:Modal Citizen B
(Mary&Josie Nugent そして Josie Nugent&Brian Stafford の二人組で素晴らしいアルバムを発表している屈指のクレア・スタイルの女性フィドラー Josie Nugent のソロ。そのスタイルをキープしつつオリジナルなフィドル音楽を目指した新作。w. Brian Stafford, Mary Nugent, Nigel&Dianne Boullier, Geordie McAdam, Alan Burke, Sean O’ Donnell, Seamus O’ Kane, Mark Wilson.2016 作。Josie Nugent)
- *OISIN Mac DIARMADA WITH SAMANTHA HARVEY
:The Green Branch B
(Teada のメンバーでスライゴアのフィドル奏者の Oisín がカリフォルニア出身のステップダンサーでピアノ奏者の Samantha Harvey をパートナーに迎えて制作されたアルバム。Samantha は現在スライゴア暮らしというから、おそらく二人は恋仲なのだろうと、想像したくなるほど、ここでの Oisín のフィドルは思いやりがあって優しく、輝いている。曲目は Michael Coleman や Charlie Lennon やオニール本やクレアーの古き良き、そして Oisín の思い入れのあるアイリッシュで、Samantha のダンスのテンポをキープした軽やか

なピアノが功を奏して、Oisínのフィドルは+αの音色を放っていて素晴らしい。レベルは格段に違っていても、二人の演奏は美しく響き合っている。輝石の一枚。2015作。Geol Productions)

*FRANKIE GAVIN, MALACHY BOURKE & BRIAN BOURKE

:The Master's Return - A Tribute To Paddy Killoran B
(Dé DanannのFrankie Gavin{フィドル}とF. Gavinの愛弟子、Malachy Bourke{フィドル}とBrian Bourke{バウロン}親子のトリオによる伝説のスライゴー・フィドラーのPaddy Killoran{1904-1965}のレパートリーをフィーチャーした勢いあるアイリッシュ・フィドル・ミュージック。Malachyのフィドル自体がパワフルだが、これにスライゴー特有のアップテンポのダンス曲に加えて、まるでFrankieとMalachyが師弟対決し合うかのような激しいフィドル合戦を繰り広げるのだから、熱くならずにはいられない。全13トラック。2015作。Ergodos)

*McDONNELL TRIO:It's Long Way To Tipperary G

(フランス在住のMichael{ヴォーカル、マンドリン、バンジョー、ギター}、Simon{ヴォーカル、ギター、バウロン、ホイッスル他}、Kevin McDonnell{ヴォーカル、アコ}のアイリッシュ・ファミリー・グループ“McDonnell Trio”による英・独・仏でうたわれた第一次大戦時の曲13曲。60年代風のオフトックスなヴォーカル・トリオ・スタイルのアイリッシュ・フォークで、朗々としたソ・シンギングやコーラスで戦時の唄物語の世界へと誘う。Tipp1418)

*MAIRE NI CHATHASAIGH & CHRIS NEWMAN:Christmas Lights G

(副題“A Selection Of Carols from Chris Newman & Maire Ni Chathasaigh”。アイルランドを代表するアイリッシュ・ハープ奏者のMaireとご主人でギター奏者のChrisのお二人によるクリスマス・アルバム。Maire&Chrisの二人は三人の音楽仲間、Nollaig Casey{Maireの妹。フィドル}、Maggie Boyle{フルート}、Roy Whyke{ドラムス}を迎えて、まるで自宅でクリスマス・コンサートをしているかのように暖かでハッピーなクリスマス・アルバム。ハープとギター&マンドリンの音色が輝いて聞こえる。全16曲。2013作。Old Bridge Music)

*THE GREAT DANES:In Ireland G

(GIROのAnders Trabjerg{アコ}とJonas Fromseier{バンジョー}の二人のデンマーク人アイリッシュ演奏家による本作は、古いスタイルのアイリッシュ・ミュージック。このお二人さん、「アイルランド人以上にアイルランド人っぽくないの」と思ってしまうくらい、古いアイリッシュの面白さや楽しさが玉手箱のように音になって飛び出してくる。これはまるで魔法の音楽。二人が外人なのも音楽作りに良い影響をもたらしているのだろう。古いアイリッシュの特徴を外人目線の「面白い」感覚でとらえ、その部分を楽しんで演奏する…。その結果のまるで古いアイリッシュのつぼを得た演奏に、これまた心は笑顔笑顔。忘れた頃に聞こえてくるボーンズのおどけた音も楽しい。アイルランドの爺さん婆さんは泣き笑い必至。ゲスト:Johnny“Ringo”McDonagh。2008作。Great Danes)

*LORCAN MacMATHUNA:The Arrows that Murder Sleep B

(シャンノース・シンギングの美を古代アイルランドの文芸に求め、独自のシンギングの世界を追究する Lorcan Mac Mathúna の、早くも新作。彼の作品を批評するのは失礼と思えるほど、彼の作品は彼の美意識で貫かれていて、Iarla Ó Lionáird でさえ、影が薄く感じられるほど孤高。本作は前作での共演者だった Daire Bracken {フイドル} に加え、Altan の Martin Tourish {アコーディオン} と Riverdance の Eoghan Neff {フイドル} と即興ジャズの Seán Mac Erlaine {木管楽器} が演奏を担当。2015 作。LMM)

*DAIRE BRACKEN & LORCAN MacMATHUNA: Preab Meadar B

(どの時代にも鬼才で奇才のあるアーティストがいるが、主にゲール語でうたう Lorcan は、アイルランドの伝承歌の持つ魂というか、大げさに言えば「言霊」をシンギングやリリキングの内に強く感じさせる。本作は特に 600 年から 1600 年のゲール語の詩を源泉とした自作曲とその時代の詩に曲を付けたもので、Lorcan のアイルッシュ・ケルトな芳香を放つシンギングは過去に生きた人びとの魂の歌声にも聞こえる。そんな鬼才のシンギングと共演するフイドル奏者の Daire {Slide, Danú} の演奏は唄の伴奏を超えた即興的演奏で、響き合っていて、感動的。2014 作。DBLM01)

*LINDSAY STRAW: My Mind From Love Being Free A

(ボストンのアイリッシュ・バンドの Ivy Leaf のメンバーで、シンガーでギター&ブズーキ奏者の Lindsay Straw 嬢のソロ。本作はこの約 10 年の間に彼女が熱中して来た英国とアイルランドの伝統歌をギターやブズーキの弾き語りでうたったもので、ブリティッシュ・フォーク風の芳香と清涼さ放つサウンドを伴って、彼女の朝露のように清々しく、まっすぐな唄たちは、心の中にずっとしみ通る。まるで、彼女が初めて伝統歌と出逢ったときの初々しい感動が、そのまま表現されたかのように、一曲一曲が芯が強く、清く、美しい。CD 収納型紙ジャケット 2015 作。Lindsay Straw)

*GIRO: Galway International Retro Orchestra G

(アイルランドのゴールウェイで結成された一姫三太郎の四人組。一姫でフイドルのまよさんは日本人で、Giro のアコーディオン奏者の Anders Trabjerg の奥様。Anders はゴールウェイで長年演奏活動をしているデンマーク人。残りの二太郎はカナダ人フルート奏者の Kyle Borley とニュージーランド人クラリネット奏者の Geoff Ward。彼らが目指す音楽は 20 世紀はじめ頃の雰囲気音楽。この目標設定は大正解。アイリッシュもジブシーもクレズマーも北欧も「20 世紀はじめ頃の雰囲気」をそれ風のレトロなサウンドで創作していて、ユニークだし、全体を通して、コミカルだったり、ホロりとさせられたり、音楽に人情味が感じられて、心はずっと笑顔。古いアイリッシュと古いジブシー音楽が調和共存する音楽を初めて聴いた。2014 作。GIRO)

*MARY COOGAN AND FRIENDS: Christmas A

(w. Joanie Madden, Jerry O' Sullivan, etc. 2001 作。Mary Coogan)

*LIAM MERRIMAN & EOIN O' MEACHAIR: The Birds Never Cease G

(Liam Merriman はアイルランドのウォーターフォードのヴェテラン SSW だが、近年はナッシュビルをも拠点にレコーディングと演奏活動をしていて、本作は同郷の Eoin O' Meachair {バソーン、マンドリン、

ホィスル}をパートナーに迎えて、ナッシュビルで録音したもの。本作は男性SSWタイプの音楽だが、結構胸キュンになる。Liam自身はChristy MooreやChristie Hennessy等のアイリッシュ・シンガーが描いてきた世界や風景を意識して制作したそうだが、聞こえてくる音楽は、夢の世界をうきうきと旅してまわるような心の自由さと優しさが感じられ、気分清々しい。野原でうたう「唄のおじさん」的なLiamの優しいたも心惹かれるし、隠し味的に盛り込まれたアイリッシュな爽やかなサウンドが、朝、野原を散歩するように気持ち良い。2015作。Three Rivers)

*DEIRDRE GRANVILLE: Imram

C

(先にCDデビューしたアイリッシュ・フルート奏者のAoife Granvilleの母親で、アイルランドで著名なヴェテラン・アイリッシュ・ハープ奏者でシンガーのDeirdre GranvilleのデビューCD。ハープ部門や彼女が参加するシンギング・グループで、いくつものメダルを受賞しているという。彼女のハープは金属弦ではないのだが、音色は金属弦に近いシャープな気品のある音色で、ハープのソロと他の楽器とのアンサンブルとで、ハープをフィーチャーした伝統的な香りのするアイリッシュ・ミュージックをさらりと演奏している。そのさらり感がむしろ彼女の伝統音楽への愛情の深さが感じられ、何とも心地よい。唄は“Ár Sinsir-Song”の一曲のみだが、ゲール語の上品なシンギングが心地よい。w. Steve Cooney, Gerry O’Beirne, Aoife Granville 他。2015作。Deirdre Granville)

*ALISTAIR RUSSELL & CHRIS PARKINSON

:A Glass And A Mile

B

(元Battlefield Bandのシンガーでギター奏者のA. RussellとアイルランドのMayoをルーツとするアコ奏者のC. Parkinsonによる二枚目。大半はアイリッシュ。Alistairは父親から多くのアイリッシュ・ソングを聞かされたという。Alistairの唄はBattlefield Bandの流れを引く印象だが、その流れの中でも愁いのある曲ばかりをうたっていて、何やら「心の唄」的な内容で、聴いていて、懐かしい気分になってしまう。2013作。Glade)

*KYLE CAREY:North Star

B

(Seamus Eganをプロデューサーに迎えて制作されたケルト系米国人SSWのKyleの本作は、アイルランド、スコットランドそしてアラチアのトラッドの範囲を自身のルーツの音楽として愛情を傾けた上で、花咲いた美しい唄たちが詰まったもの。Kyleは自身のご先祖{アイルランド、スコットランド、アラチア}に思いを馳せるようにスピリット高くうたう。共演者はPauline Scanlon{約半分の曲で最高に美しい高音パートのハーモニ・ヴォーカル}、SolasのEamon McElholm, Catriona McKay, Chris Stout, Dirk Powell, Natalie Haas, James MacKintosh, Ben Walker, Josienne Clarke, Gillebride MacIilleMhaoil。2014作。Kyle Carey)

*BREAKING TRAD:Breaking Trad

A

(何度聴いてもDonal Murphyのアコーディオンは魔法のアコーディオン。手を変え品を変え、本当にアコが飛び跳ねる。絶頂期のSharon Shannonを彷彿させるノリで、アコの音を聴くだけで、体が

にここに上機嫌。本作はトリオ名義で、フィドルの Niall Murphy とギターの Mike Galvin の共演仲間なのだが、アコの演奏が際立っていて、二人は Doanal のアコの演奏に刺激されてフィドルとギターは小躍りする印象で、アイリッシュする躍動感がもの凄い。2015 作。(Breaking Trad)

*THE OUTSIDE TRACK: Light Up The Dark A
(アイルランド、スコットランド、カナダ・ウクライナ出身による四姉一太郎の汎ケルティック・バンドの Outside Track ~ Teresa Horgan {ウオーカル、フルト}、Ailie Robertson {ハープ、ウオーカル}、Fiona Black {アコ}、Mairi Rankin {フィドル、ウオーカル} + Cillian O' Dalaigh {ギター、ウオーカル}) ~ の待望の五枚目はアイリッシュ、ケープ・ブレトン、スコティッシュのスリングでカッコいい三曲モデルの一曲目 "Drilling" のお目覚め曲で幕開けし、三つの国のダンス曲をフルッシュなセンスで巧みに絡ませつつ、思いもかけない展開を企てたり、かと思えば、しっとりとした優美な曲やシンキングで癒やしもする。2015 作。(Lorimer)

*THE NE' ER DUWELS: The Ne' er Duwels A
(The Ne' er Duwels はアイルランド人シンガーの Ken O' Malley とリアン・ハイプス奏者の Patrick D' Arcy とマルチ弦楽器奏者の Bryan Dobbs とグラミー賞受賞ドラマの Forrest Robinson の米国の四人組アイリッシュ・バンド。アイリッシュ・ミュージック + α の魅力を発散する実力派だ。2015 作。Ne' er Duwels)

*VINCENT CAMPBELL: The Purple Heather D
(二枚組。副題 "Traditional Fiddle Music From Donegal"。Vincent Campbell は 1938 年ドニゴール生まれで、ドニゴールのフィドル演奏の代表者。すっぴんのフィドル演奏がたっぷりの全 66 トラック。P36 のブックレット付。2010 作。CNF006)

*NOELEEN NI CHOLLA: An Mhaighdean Mhara C
(ドニゴールのグウィット出身で、Altan のマレットが始まりの紹介文を書いている女性シンノース・シンガーの Noeleen Ní Cholla のソロ・デビュー作。妖精がらみの不思議な唄や悲恋の唄などの愛唱歌をゲリック・ソングのリズムと柔和な響きをピュアに保ち、子守歌をうたう優しさで包む。伴奏は Manus Lunny, Calum Mac Colla, Martin Crossin の三名。彼らのワフなアイリッシュ・サウンドが Noeleen の柔らかなシンキングを優しくしている。2015 作。Cló Iar Chonnacht)

*ANNA FALKENAU: Féileacán na Saoirse B
(ご主人がアイルランド人で、現在ゴールウェイ在住のドイツ人アイリッシュ・フィドラーの Anna Falkenau の古くさが美味なアイリッシュ。何度も聴く内に彼女の渋いフィドルの魅力の虜になってしまった。彼女は米国に住んでいたらしく、本作では二曲、米国のオールド・タイム・ミュージックも演奏しているが、シュリーヴルークラ等のアイリッシュと違和感なく、同じ国の伝統音楽のように響き、心に響く。この渋さ、そして温和さは貴重。彼女は今、子ども達に人気のフィドルの先生だそうだが、こんな先生に習った子ども達はきっと心に響く演奏ができるフィドル奏者に育つに違いない。渋くて素敵なおアイリッシュ・フィドルだ。w. Ged Foley, Mary Shannon, Kevin Hough, Lena Ullman, Holly Geraghty, Steve

Sweeney, Johnny 'Ringo' McDonagh.2014 作。Scroll)

*BULLY ACRE:The Twelve Pins

G

(Bully's Acre を名のる Peter Browne{アコーディオン}と Robbie Harris {パーカッション}のアイリッシュの達人とダブリン在住アルゼンチンギター奏者の Lucas Gonzales によるセッションにはぶっ飛んでしまった。Lucas のギターは主にフラメンコスタイルのギターで、アイリッシュには異色のサウンドなのだが、何より Peter Browne と Robbie Harris の究極のと言ってしまうほどのリズム遊び感覚抜群の至芸が素晴らしく、二人の至芸に Lucas の熱いギターとぶつかり合って、アイリッシュの火花を散らす。2014 作。Big Beat Music)

*IRISH FOLK FESTIVAL 2009 "Between Now And Then"

B

(David Munnelly Band{Walnut Valley Bluegrass Festival のライブ音源から 4 曲}, Niamh Parsons&Graham Dunne {2009 年 Graham Dunne 録音による新録曲 4 曲}, アイリッシュ・シンガーの Tommy O' Sullivan {2009 年 Lunasa の Donogh Hennessy 録音による新録曲 4 曲}, ケープ・ブレトンの美人フィドラー率いる Jennifer Roland Band {2009 年新録曲 4 曲} の全 16 トラック。それぞれのアーティスト/グループがそれぞれに素晴らしい。アーティスト/グループの紹介&曲目解説付。2009 作。Magnetic)

*HARRY BRADLEY & MICHAEL CLARKSON:The Pleasure Of Hope B

(副題"Flute Music From Belfast And Beyond"。アイリッシュ・フルート奏者の H. Bradley ともう一人、Harry と同じベルファスト出身のフルート奏者 M. Clarkson によるアイリッシュ・フルート・アルバムの名盤。曲目はベルファスト、フェアナ、スライコー、ドニコール、リトリム、ロスカモン、クラー、シュリウ・ルーク等などアイルランド縦断的にフルート二本で、「これがアイリッシュだぞ!」と言わんばかりの様々な表情のアイリッシュで歓喜させる。ブックレットで Ciaran Carson が最高の賛辞を寄せている。2009 作。HBMC09)

*MARTIN McHUGH:The Master's Choice

a

(ニューヨーク、シカゴ、ホーストン等のアイリッシュ・ミュージックが伝統的に盛んな都市が米国の諸都市にあるが、ミネソタ州ミネアポリスもアイリッシュ・ミュージックが盛んで、アコーディオン奏者の Martin McHugh はもう何十年もその中枢で演奏してきたヴァイオリン演奏家。1960 年~1970 年代のミネアポリス周辺で演奏されていたアイリッシュ・ミュージックを今に伝える貴重な演奏家という。本作は Martin の豊富なレパートリーに驚いた Laura Mackenzie が音楽仲間の Daithi Sproule を誘って、三人のセッションで収録したもの。全 16 トラック。Martin 爺さんの演奏は常若。老い知らずのダンス曲の数々だ。この爺さん、アコを持ったら、勝手に弾きまくるんじゃないのかな? 2013 作。Laura Mackenzie)

*3 TRIUR:Omos

B

(Peadar O Riada{コンサーティナ}, Caoimhin O Raghallaigh{ハルディングフェール}, Martin Hayes{フィドル}のトリオ"3 Triur"の三枚目。全曲 Peadar の自作曲。Peadar はアイルランドの村々で伝承されてきた音楽、その音楽を継承し、演奏し、作曲した偉大な音楽家達やその音楽に磨きをかけてきた音楽家達に敬意を払い、自身が作曲した音楽をトリオで演奏したのが本作。前二作同様、三人の演奏は暖炉のある部屋で、心通わせ演奏し合うような心に響く音楽を奏で合っているのだが、本作は曲作りの着想が、例えば、Michael Tubridy だったり、Micho

Russell だったり、Tony MacMahon だったり、はたまたクラアの伝統音楽家達だったりとその音楽性がある意味個性化されている分、各曲の彩り、下世話な言い方をすれば、臭みが楽しい。全 14トラック。2013 作。Peadar O Riada)

*SHANE McALEER:Long Time No See

B

("At The End Of The Day"まで Derish のフィドラーとして活躍していた北アイルランドのベルファストの出身のアリッシュ・フィドラーShane McAleer のソロ。退団の理由は飲酒問題。アル中だったのだろうか? 昔、ケリスの田舎町で Dervish と会ったときに彼と会ったことがあるが、今は痩せて別人。Shane の演奏は Dervish 時代のエネルギッシュな演奏とはおさらばを感じさせるもの。齢を重ねたということもあるが、内面から湧き上がる感情のままに演奏したかのように音楽が美しい。美しいが音の根に粘着力があり、心揺さぶるたくましい美しさだ。曲目は彼の豊富なレパートリーからの選りすぐりの各種ダンス曲とアール曲そして自作のダンス曲とアール曲とから成っていて、Solus の Eamon McElholm がギター等で阿吽の良き女房役を努めている。2013 作。Shane McAleer)

*BRENDAN MULHOLLAND:Jean's Hill

A

(Brendan Mulholland, Brendan Hendry, Paul McSherry のフルト奏者のソロ。北アイルランドの伝統曲を中心にした本作は、Brendan の誠実な人柄がそのまま音楽となったような音楽。様々なレパートリーのダンス曲を凄いテクニックで演奏するが、Brendan はその音楽の持つ個性をゆがめずにきっちり演奏することに終始する。その几帳面さが音楽の味わいをまっすぐに深めている。静かな部屋で、心を集中し、演奏してるような澄んだ空気感もいい。2012 作。Brendan Mulholland)

*THE USHER FAMILY

:Traditional Singing From County Louth

A

(Mary Ann Carolan{1902-1986}、弟の Pat Usher {1912-1988} そしていとこの Petey Curran{1896-1980}の Usher Family の 1974 年収録の音源から制作された貴重なアリッシュ・トラッド・アルバム。全 22 曲。録音したのはトラッド・シンガーの Donal Maguire。約半数は 1982 年の Topic 盤で広く知られる収録時 52 歳の Mary Ann の純朴で美しいシンギング。Mary Ann はリズムを取りながらうたってるのが、物音から知覚できる。男性二人のシンギングはいたっておだやか。曲目は一家が伝承してきた民謡。一般的に知られる伝統歌ではないが、どの唄も暖かく深い。砂漠でアリスの逸品。2014 作。Rossendale)

*PADDY O' BRIEN, NATHAN GOURLEY & DAITHI SPROULE

:Bright And Early

A

(アコーディオンの Paddy とフィドルの Nathan と Altan のギターの Daithi のトリオによる新作。全 16トラック{35 曲}をすいすいと演奏する。マイクで黙々と、それでいて変幻自在に軽やかに演奏する Paddy のアコーディオンに Nathan と Daithi が音を合わせる風で、Daithi のギターを聴けば、取り立てて頑張ってる演奏している風ではなく、ある意味鼻歌をうたうような気楽さでギターを爪弾いているようにきこえる。本作の演奏の中心はどう見ても Paddy のアコで、Nathan と Daithi はどちらかと言うと Paddy の引き立て役。アリッシュ・ダンスのリズムが跳ねて出てくる Paddy のアコの演奏は目が回るほど。2014 作。New Folk)

*LA LUGH: Senex Puer

G

(Lá Lugh は Eithne Ni Uallachain {ヴォーカル、フルート、ホイッスル} と Gerry O' Connor {フィドル} の二人組。改めて聴いてみようと思ったのは、Eithne が亡くなる前の三年の間に録音した音源からの編集盤 "Bilinga" を聴き、その時点で、アイリッシュ・シンギングとアイリッシュ・ミュージックの進化形を既に創作していたことに驚かされたからで、改めて 1998 年作の Lá Lugh の本作を聴き、正にそうした音楽の精華を、伝統を踏まえつつ、創作意欲旺盛に、緻密に、思慮深く、大胆に表現しているのに初めて気づかされた次第。当時は、創作意欲をアイリッシュ・ミュージックからの後退と、深く聴かずに耳が判断していたが、修行が足りなかったと反省。アイリッシュ魂が本当に深い感動作。1998 作。フランス Sony)

*EITHNE NI UALLACHAIN: Bilingua

G

(今や伝説のグループの Lá Lugh や Cosa Gan Bhróga のシガーの Eithne {1957-1999} の唯一のソロアルバム。本作で初めて Eithne が 1999 年に亡くなっていたことを知った。死因は不明だが、本作のコーディングは長い闘病から回復した 1997 年から 1999 年に亡くなるまでの期間に行われ、収録曲は全 11 トラック。本作を聴いて驚くのは、アイルランドの SSW として、クリエイティブな音楽の創造に挑んでいることだ。二曲目の "Meadhran Samhraidh" ではアイリッシュ・ダンス・ミュージックの躍動感を最大限に活用し、当時としては Donal Lunny や Bill Whelan に引けを取らぬ最前線のヴォーカル&ダンス・ミュージックを創り上げ、三曲目の "Grief" や四曲目の "Lughnasa Damhsa" ではケルト風の幽玄な唄の世界を創り上げている。豊富な音楽のアイデアが自作の唄を通して、見事なアイリッシュ風「唄の花」を咲かせている 2014 作。Gael Linn)

*AOIFE NI CHAOIMH & PAUDIE O' CONNOR

: Didnt She Dance and Dance

G

(シュリーヴ・ルークラの伝統音楽に造詣の深いフィドル奏者の Aoife とアコ奏者の Paudie とのご夫婦コラボ。本作は二人がこれまでに一緒に演奏した演奏家達と愛聴した音楽に捧げられたもので、聴き親しんだシュリーヴ・ルークラのシュリーヴ・ルークラらしい音楽が生き活きと演奏されてる。二人は演奏することで、時空を超えて音楽の故郷へと里帰りし、先輩名人であり音楽の師である Padraig O' Keefe や Denis Murphy や Johnny O' Leary 等と心通わせているのだろう。リスナーの評価など無意味な一途で清く美しい音楽。ゲスト: Paul de Grae {ギター}, Ruairi McGorman {ベースキ}。2014 作。Paudie O' Connor)

*CORMAC DE BARRA · ANNE-MARIE O' FARRELL: Duopoly

G

(Clannad の Moya Brennan とも活動するアイルランドを代表するアイリッシュ・ハーブ奏者の Cormac De Barra とクラシック・ハーブ・スタイルのアイリッシュ・ハーブ奏者の Anne-Marie との待望の新作。前作 "Double Strung" はアイリッシュ・ハーブ・ファンに大人気のアルバム。本作はまるでクリスマスの時期に合わせ創作されたかのような厳かな中に、美しく華やかな雰囲気にも満たした心洗われ、心おどるアイリッシュ・ハーブ・ミュージックになっている。使用ハーブは Cormac が Salvi Egan, Salvi Aurora, Phillip Murray harp {金属弦ハーブ}、そして Anne-Marie が Salvi Livia, Salvi Diana pedal harp, Colm Ó Meachair harp {金属弦ハーブ}。カヴァイの各種ハーブのきらびやかな音

色と金属弦ハープの貴重な音色とを組み合わせ、アイリッシュ・ハープ・ミュージックの究極の美を創作している。2014 作。Anne-Marie O'Farrell (Cormac De Barra)

*TONY MacMAHON & STEVE COONEY

:Scaoil Amach an Pocaide - Live in Spiddal G

(現在パーキンソン病を患って演奏に支障を持つ Tony Mac Mahon{アコ}と Steve Cooney{ギター}の二人組による 2005 年の貴重ライブ。Tony の病気のことを知って聴くからか、本作での Tony のアコの演奏の大きさに驚かされる。と同時に音楽への並々ならぬ愛情がある曲では気持ち大らかに、ある曲では気持ち軽やかに、またある曲ではしみみりと注ぎ込まれていて、いやはやすっかり夢中にさせられてしまう。一曲終わるとの観客の感性がこれまた熱い。Martin Hayes が「これは、アイリッシュ・ミュージックに興味を持つ誰もが所有すべき美しく、そして心底感動的なアルバムだ」と推薦文を寄せている。同感。2014 作。Raelach)

*TEADA:Irish Traditional Music G

(Teada の貴重なデビュー作。ブックレットを留めるホッチキスに若干サビが見られます。2002 作。Ceol)

*MARY McPARTLAN:Petticoat Loose G

(Dolores Keaneクラスのアイルランド・ミュージック界でも重要な人物 Mary の 2 枚目。w. Seamie O Dowd{プロデューサーでもある}, Cathal Hayden, Frankie Gavin, Mairtin O' Connor, Brendan O' Regan, Gerry O' Connor, Garry O' Brien, Johnny Ringo McDonagh, Rick Epping, etc. 2008 作。Mac P Productions)

*COLLEEN RANEY・COLM MacCARTHAIGH:Cuan A

(ケルト系女性アイルランド・ミュージックの Colleen とケルト系ギター&シンナー奏者の Colm のコラボの音楽は、Colleen の美しく芯のしっかりしたシンギングと Colm のケルティックなギター・サウンドが絶妙で、良質のブリティッシュ・フォークやアイリッシュ・トラッド系音楽を奏でていて、心奪われる。ギター伴奏のケルト系の女性シンナーのアルバムとして絶品。2011 作。Cuan Music)

*KEVIN MADDEN:The Sugar Loaf B

(マンチェスターの中年アイリッシュ・フィドル奏者の Kevin Madden のデビュー・ソロ。1996 年の All-Ireland のフィドル部門のチャンピオンだということ。それから幾年月。本作に聴く Kevin のフィドル音楽{スロー・エアー}一曲以外はアイリッシュ・ダンス曲はチャンピオンというイメージとは異質な、家庭で気心の知れた兄弟や友人と演奏することを楽しむかのような爽やかなアイリッシュ・ダンス曲の連続。共演相手は、Mike McGoldrick{フルト}, John Joe Kelly{ハーモニウム}, Gerry Conlon{ピアノ、アコ}, Bernie Roberts{コンサティーナ}, Noely Ryan{ギター}, Tim Edey{ギター}, Pat O' Reilly{ベースキ}。2014 作。Kevin Madden)

*IRIS NEVINS:String Theory A

(副題"Celtic Tunes Played On Harp, Guitar&Wired Strung Harp"。アイリッシュ・ハープ兼ギター奏者の Iris Nevins のハープとギターをフィーチャーしたケルティック・ミュージック・アルバム。金属弦ハープを交えたハープの演奏もギターの演奏も中世のケルティック・ミュージックを想起させる気品ある響きを爪弾き出して、新鮮。むしろ美しいケルティック・チューンを純粋に素朴に演奏

していることが、ハープ、ギターが本来持っている美しい弦の響きを引き出して、素直に美しく感じられる音楽になっている。14トラック中、5トラックは、Linda Hickman〔フルト、ホイッスル〕または Doug Barr〔コンサートイナ〕または Tom Dunne〔アコ〕とのコラボ。それらは朝のセッションのような清々しさが感じられて、何とも快い。不思議に聴き飽きない愛おしい音楽。2012 作。Iris Nevins)

*THIS IS HOW WE FLY: This Is How We Fly G

(本作は Caoimhin Ó Raghallaigh とアイルランド人クラリネット奏者の Sean Mac Erlaine とスウェーデン人パーカッション奏者の Petter Berndalen そして米国人ステップ・ダンサーの Nic Gareiss の四人によるコラボ。Caoimhin と Sean がソロで、また二人奏でるメロイは、Martin Hayes の音楽を自由に膨らませたような音楽。アコースティック曲などは悠久の調べと化している。ステップ・ダンスのタップの音とパーカッションの音の聞き分けが出来ないが、地中で鳴り響くような音で自在なリズムを刻んでいる。Play With Music)

*AMELIA HOGAN: Transplants: From The Old To The New B

(Amelia は米国人アイルランド・シンガーだが、凛としたシンギングは、70 年代の女性トラッド・シンガーのいくつかの名盤を彷彿させる見事さ。そんな Amelia の唄からは、アイルランド系アメリカ人達が、彼らの先祖や彼らの心の故郷を想う感情が込められているようにも感じられて、心に響く。素朴なギターのみ伴奏というのが、Amelia の唄の質を高めているようにも聞こえる。米国から珠玉のアイルランド・トラッド。2013 作。Amelia Hogan)

*NORLAND WIND: Storm In A Teacup G

(副題“Music And Song From The Celtic Northwest”。Clannad タイプのケルティック・トラッドの名品。Kerstin Blodig はこれまで素晴らしいケルト風ファンタジック・ミュージックを創作してきたが、本作は新グループ〔メンバーは Noel Duggan〔ヴォーカル、ギター〕、Thomas Loefke〔ハープ、ヴォーカル〕、Angelika Nielsen〔フイドル、ヴォーカル〕、Henning Flintholm〔キーボード、ヴォーカル〕を結成し、ケルティック・グループとしてバランスの取れた音楽を創作している。サウンド面では Thomas Loefke のケルティック・ハープと Angelika Nielsen のフイドルの効果が大きい。Clannad より Clannad らしい。Ian Melrose。2013 作。Laika)

*JOHNNY DUHAN: Family Album (90 作。1st. Round Tower) B

*JOHNNY DUHAN: Just Another Town (2nd. Bell) C

*JOHNNY DUHAN: Don Quixote (3rd. Bell) C

*THE CENTER FOR IRISH MUSIC VOL. 1

“Young Irish Musicians Weekend” A

(2007 年版の Vol. 1。生演奏をするミュージシャンは、James Kelly, Tommy Martin, Paddy O'Brien, Daithi Sproule そして Fintan Vallely。全 22 トラック。CD-R。The Center For Irish Music)

*THE CENTER FOR IRISH MUSIC VOL. 2

“Young Irish Musicians Weekend” A

(2008 年版の Vol. 2。生演奏をするミュージシャンは、Liz Carroll, Dermot Diamond, Tara Diamond, Tommy Martin そして Daithi Sproule。全 14 トラック。CD-R。The Center For Irish Music)

- *THE CENTER FOR IRISH MUSIC VOL. 3
 “Young Irish Musicians Weekend” A
 (2009年版のVol. 3。生演奏をするミュージシャンは、Liz&Yvonne Kane, Eliot Grasso そして Daithi Sproule。全13トラック。CD-R。The Center For Irish Music)
- *THE CENTER FOR IRISH MUSIC VOL. 4
 “Young Irish Musicians Weekend” A
 (2010年版のVol. 4。生演奏をするミュージシャンは、Martin Hayes, Kevin Crawford, Randal Bayes, Daithi Sproule そして Danny Diamond。全13トラック。CD-R。The Center For Irish Music)
- *THE CENTER FOR IRISH MUSIC LIVE RECORDING VOL. 5
 “A Harvest Home” A
 (2011年と2012年のライヴからのVol. 5。出演者は、Maighread Ni Dhomhnaill {3曲。内1曲は Daithi Sproule とのデュエット}, Harry Bradley, Jesse Smith, Felix Dolan {4曲。内1曲は Harry Bradley のソロ}, John&James Kelly {4曲。内1曲は James Kelly のソロ}, Dave Shepherd, Sean Gavin, Brian Miller {1曲}, Jesse Smith {1曲}, Eileen Gannon {1曲} 他。収録曲は15トラック。渾身の演奏とシンキングばかり。Produced by Daithi Sproule。CD-R。The Center For Irish Music)
- *LITHA: Dancing Of The Light C
 (メンバーは、Aaron Jones {ヴォーカル、ベース、ギター}, Claire Mann {フルート、ホイッスル、ヴォーカル}, Gudrun Walther {ヴォーカル、フィドル、アコ}, Jurgen Treyz {ギター、トブロー、ヴォーカル} のスコットランドとドイツの組み合わせ。曲目はアイリッシュが半数近くで、バランスの取れた演奏と歌唱は、アイリッシュをベースにしつつ、音楽をコンテンポラリーな域にまで高めている。2011作。Arte)
- *CONOR QUINN & MALACHY BOURKE
 :Live At The Steeple Sessions B
 (ゴールウェイっ子の Tonor と Malachy は幼友だちでアイリッシュ・フィドル楽隊同志。一緒に演奏を始めたのは1992年という。本作は2011年、ダブリンの Unitarian Church という教会でのライヴ。確かにフィドル二台の演奏なのだが、知らずに聴けば、フィドルソロとってしまうような二台のフィドルが一つになってしまったような音楽。二人の演奏からゴールウェイの古いフィドル・ミュージックのスタイルを感じてしまう。ゆるく、伸びやかで、ワビサビ感のある音楽。この音楽性は Martin Hayes のスタイルに近い。Tonor と Malachy の、まるで「二人で一人」の飾らない音楽は僕には悠久の調べにも聞こえる。まばらな拍手が寂しいなあ。2013作。Ergodos)
- *BAIDIN FHEIDHLIMI – Gael Linn Singles 1968–1980 B
 (Johnstons, Sean O Se, Ro-og Breandan O Duill&Skara Brae, Triona Ni Dhomhnaill, Maighread Ni Dhomhnaill, Michael O Dhomhnaill&Donal Lunny, Dermot O’Brien 他。Gael Linn の稀少音源からの全20トラック。2013作。Gael Linn)
- *DELIA MURPHY: If I Were A Blackbird B
 (多くの人々に愛されたアイルランドの女性フォーク・シンガーで、民謡収集家の Delia Murphy {1902–1971} の1930年代後半から1940年代の音源か

らの編集盤。全 21 曲。セピア色の唄とのどかなアイルッシュ・ミュージックが一瓶の清涼剤。2013 作。WHM01CD)

- *COMAS: Charge G
(2005 年、ベルギーから衝撃のデビュー以来長い間待った Comas の二枚目。Solas と Lunasa を掛け合わせて 2 で割ったような疾走感と流動感が素晴らしい。メンバーは Kevin Burke のいとこの Aidan Burke {フィドル}, Philip Masure {ギター、シタン、ブスーキ}, Jackie Moran {ハウロン、パーカッション} そして Sylvain Barou に代わって新加入の Isaac Alderson {フルート、リアン・パイプス} の計 4 名。ゲスト: Sylvain Barou。2012 作。Appel)
- *MAURICE LENNON: The Little Ones G
(伝統音楽一家 Lennon ファミリーのフィドル名手で、若き日には Stockton's Wing で活躍した Maurice Lennon の子。父親は Ben Lennon。Charlie Lennon は叔父に当たる。Maurice は癌の病で、闘病を繰り返しているという。聴くなり何とも言えない深い味わいのあるアイルッシュ・フィドルに吸い込まれてしまった。これは至芸としか言いようがない素晴らしい演奏だ。その至芸に Charlie がリズム遊びでもするかのようにピアノで伴奏を付けているのが、何とも軽妙で楽しい。ゲスト: Ben Lennon, Brian Lennon, Garry O Briain, Noel O' Grady, Paul Roche, etc. 2013 作。Clo Iar-Chnacht)
- *LONG TIME COURTING: Alternate Routes B
(アイルッシュ/ケルティック・ミュージック・シーンに爽風を注ぐ素晴らしい女性 4 人組アイルッシュ系トラッド・グループがアメリカからデビューした。新グループだが、音楽のキャリアに裏打ちされたアイルッシュ&ケルティック・スピリットは、今が高みを誇っている。メンバーは Sarah Blair {フィドル}, Valerie Thompson {チェロ}, Liz Simmons {ギター} そして Matt & Shannon Heaton の Shannon Heaton {フルート}。総合力で、疑い無く Top Irish Group。2013 作。Long Time Courting)
- *COLM NAUGHTON: The Space Between The Notes B
(Mairtin O' Connor 一押しのアイルッシュ・バウンズマンそしてマントリン奏者の Colm のデビュー作。バウンズマンとマントリンを中心にギターとブスーキも重ね撮りで演奏する。昨今アイルッシュ・バウンズマン奏者の素晴らしいアルバムが発売されているが、Colm はそうした演奏家 + α の魅力を持った演奏家。つまりバウンズマン命でダンス曲を見事に演奏する上に、音楽的というか、心が感じられる演奏を美しく披露する。w. Jimmy Higgins, Sean Keane, Pat Coyne, Orlath Keane, etc. 本作は天国の母親 Nellie に捧げられている。2013 作。Colm Naughton)
- *SEODA CEIL 1 & 2 C
(Gael Linn の 60 周年記念で発売された 1960 年代後半のアイルッシュ・ミュージックの名演奏家の演奏集で 2 枚組 CD。"1"収録は、Willie Clancy, John Kelly, Sean O Conaire。"2"収録は、Seamus Ennis, Sean Keane, Seosamh O hEanai {Joe Heaney}, John Joe Gannon。2013 作。Gael Linn)
- *LEN GRAHAM: I'll Sing You A Story B
(アイルッシュ・トラッド・シガーの大御所 L. Graham の本作は、副題 "Songs From Ireland For Young People" が示すように子ども向けのアイルッシュ・ソング集。Len が見つけた民謡や人がうたって聞かせてくれた民謡や

- Len の母親がその母親から教わった民謡など Len が長い人生の中で持ち歌にしている民謡を優しくうたったアルバム。w. Garry O Briain, Ronan Browne, Mairtin O' Connor, Tommy Hayes, Jimmy Johnson. 曲目解説付。全 16 曲。2012 作。CDR。Cranagh Music)
- *PADRAIGIN NI UALLACHAIN: Let The Fairies In B
(Len Graham の奥様 Padraigin の本作は、1994 年に発売された小さい子向け「子守歌」を中心にした名作“A Stor Is A Stoirin”の姉妹アルバム。Donovan の“HMS”の世界というか、これはもう夢の世界。w. Donal O' Connor, Steve Cooney, Garry O Briain, Ronan Browne, Tommy Hayes, Odhran O Casaide。全 11 曲。2012 作。Ceoltai Eireann)
- *MAIRE UNA NI BHEAGLAOICH & JUNSHI MURAKAMI: Geol Uisce C
(Seamus Begley といこの Maire {Maire Begley} とタフリン在住日本人アリッシュ・ハーフ 奏者の Junshi {村上淳志} とのコンサートとハーフのデュエット・アルバム。曲目は Maire の出身地のケリーの音楽からカラムの曲を含むアイルランドそしてスコットランドの音楽と広がりを見せてはいるが、音楽の空気は伝統音楽の家系 Begley 家の音楽の空気。Junshi 君のハーフはその空気と音楽のゆったりペースの中で水玉の音色を奏で、水色の水彩画のような彩りを添えている。春のうららかな日にノックと聴いていたい音楽。砂の音と共に始まり、砂の音で終わる。このゆるい音楽は貴重。パッケージは一枚一枚麻紐で十字に結ばれている。2012 作。Geol Uisce)
- *JOHN McEVOY: Traditional Irish Fiddle A
(Catherine McEvoy との共演盤“The Kilmore Fancy”や John Wynne との共演盤で知られるフィドル奏者の John McEvoy のソロ。知名度だが、実質的にはゲストの共演者とのピアノ、ハーフ、フルート、コンサート、アコーディオン、フィドルとのデュエット形式の音楽。共演者は Con McEvoy, Paudie O' Connor, Jacinta McEvoy, Gay McKeon, Catherine McEvoy, John Wynn。2012 作。LAGORE002)
- *MICHEAL O RAGHALLAIGH & DANNY O MAHONY: As It Happened A
(コンサート名手の Micheal O Raghallaigh とホタン・アコーディオンのオール・アイルランド・チャンピオンジャハ楽器のデュエット。2012 作。DOMCDO02)
- *MICK O GRADY, JESSE SMITH, JOHN BLAKE
: At My Grandmothers Knee B
(メヨー生まれで、ロンドンやアメリカ生活を経て、今日アイルランドに住む Mick O Grady は 1940 年代から 50 年代の南スライゴと北メヨーのフィドル・スタイルを受け継ぐ熟練フィドラー。Mick のオール・スタイルのフィドルに引き寄せられてやってきたのが、古いアリッシュ・ミュージックに掘り起こしに熱心なフィドル奏者の Jesse Smith と、ここではピアノの John Blake。3 人の演奏は、タイトルのようにおばあさんの膝の上で聴くような懐かしいアリッシュ。2012 作。SOB001)
- *JESSE SMITH: Jesse Smith C
(Danu のフィドルの J. Smith のソロ。Jesse Smith)
- *JOHN DALY: John Daly C
(Tommy Peoples 推薦のフィドラー。2003 作。Ossian)
- *THE WILLIS CLAN: Chapter One - Roots A
(Willis 家の先祖はスコットランド系アイルランド人の移民で、米国に渡って来

たのは17世紀初めという。Willis家の兄弟姉妹6名のアイリッシュ・グループのWillis Clanの本作は、まるで初期Solasの勢いの滅茶苦茶かつこいい。彼らはもう5年以上も演奏活動をしているようで、変幻自在な手馴れた演奏は抜群のワだし、Jessicaの舞うように軽やかなシンギングは滅茶苦茶キート。楽器編成はアコーディオン、フィドル、ギター、バズン、ホイッスル、バウロン、ステップダンス。2012作。Willis Clan)

*THE OLLLAM: The Olliam

a

(LunasaやAt First Lightの創設メンバーで、イアン・ハイプス&ホイッスル奏者のJohn McSherryと米国のアイリッシュ系バンドのMillishの創設メンバーでイアン・ハイプス・チャンピオンのTyler DuncanとMillishの創設メンバーでジャズ・パーカッション奏者のMichael Shimminのトリオ。基本的にイアン・ハイプスの音楽とジャズ・パーカッションの融合音楽。ケルト音楽最前線。2012作。Compass)

*EILEEN O' BRIEN: Aon Le h' Aon

B

(2009年に発売された“The Definitive Collection Of Music Of Paddy O'Brien{1922-1991}”の中から、Paddyの娘で、フィドル名手のEileenが実演したアルバム。全20トラックの35曲収録。父親のPaddyと祖父のDinnyの音楽の影響を強く受けたというEileenの演奏は、上品で優美。過度の感情移入を廃したMartin Hayesのような印象。凜として、清く美しいアイリッシュ・フィドル・ミュージックだ。2012作。Moanfin)

*OIRIALLA: Oirialla

B

(OiriallaはNuala Kennedy{ヴォーカル、フルート}、Gerry O'Connor{フィドル}、Gilles LeBigot{ギター}、Martin Quinn{アコーディオン}のアイランド、スコットランド、ブルターニュの演奏達人によるスーパー・ケルティック・グループ。いや、流石。Jamie McManamyのバンドがそのままNuala Kennedyに移ったような一歩引いた深みのある余裕のケルティック・ミュージックを披露する。NualaのシンギングはKaran Casey風で、これまた味わい深い。2012作。Lughanasa Music)

*GERRY O' CONNOR&GILLES LE BIGOT: In Concert

C

(La LughのGerry O'Connor{フィドル}とブルターニュ屈指のギター奏者Gillesとの2005年12月ブルターニュでのライヴCD。「変幻自在、緩急自在な」という言葉が相応しいGerryの空前絶後のアイリッシュ・フィドルの渾身の名演奏が矢継ぎ早に展開される。2006作。Lughanasa Music)

*CAITRIONA NI CHEANNABHAIN: Solas

A

(ジャン・ノース・シングァーのMichael Mhaire Ghabhaの娘さんCaitrionaのソロ。Caitrionaがうたうアイリッシュ・トラッドは、硬質というか、きりっとして揺るぎがなく、それでいて牧歌的。基本的な歌唱法はDolores Keane風なのだが、トラッドよりも、全体にカントリー風味を漂わせている。w. Pat Coyne, Sean Keane, David Dooney, Stephen Doherty, Paul Canavan, Lizzy O'Malley, Peter Gannon。2012作)

*JAMES KEANE: Heir Of The Dog

A

(1967年にニューヨークに移り住み、かれこれ45年間、ニューヨークを拠点に常にアイリッシュ・ミュージックのトップ・アコーディオン奏者として活動してきたJames Keaneの新作。豊富なレパートリーの中から選ばれたジグ、リール、ホーンパイプ等のダンス曲の数々は年代、地域、様々だが、それぞれにジャンプ力あるダンス曲として、小気味よくも力強い。彼の音楽を評すること自体が虚しくも感じられる、様々なワの活力あるアイリッシュ・ダンス・ミュージック。

- w. Eamon O'Leary, Kathleen Boyle, Tom English. 2012 作。New Folk)
- *JERRY O'REILLY: Havoc In Heaven A
 (伝統歌を含め、フォークソングの素晴らしさを教えてくれる好盤。アルバム・タイトルにもなっている一曲目は Frank Harte 没後に Robbie O'Connell が作詞作曲した唄で、天国に行った Frank Harte が天国にいる著名歌手と愉快的唄の共演をする唄。アイリッシュ・ソングのみならず、ジョン・レノンやプレスリーやジャニス・ジョップリンまで登場する。Jerry の唄はストーリーテラーに徹していて淡々。聴き手は一言一言に耳を澄ませ、心は笑顔。本作は 2010 年に天国に召された Jerry の奥様の Anne に捧げられている。全 15 トラック。2012 作)
- *BARRY GLEESON: Tough Night A
 (Barry Gleeson はアイルランドを代表するヴァン・クラフト・ソングだが、本作は Barry のユニークなアイリッシュ・ソングが物語の内容によって、柔軟に変化する。これはジョーク好きのアイルランド人が大いに好みそうなユーモアと皮肉のセリ溢れる伝統的民衆歌の数々。アイルランド人が歴史上最も嫌ってる人物の一人があのかもウエル。「かもウエルの呪い」ほか全 16 曲。w. Kevin Konneff, The Voice Squad, Peter Eades, Grace Toland, Lauralee Curten, etc. これは楽しく素晴らしいアイルランドのフォークソングの伝統文化。2012 作。Gleeman)
- *PHIL CALLERY: Landscape Of The Past A
 (Voice Squad のソング、P. Callery のソング。Voice Squad 自体がイングランドのファミリー・グループの Watersons や Copper Family のスタイルのアイリッシュ・クラフト・ソング・グループだったが、Phil のソングもアイリッシュ・クラフトのスタイルではなく、1970 年前後のブリティッシュ・フォーク・リヴァイヴァルの影響を受けたイングリッシュ・クラフトの、それも極めて上質のソング・スタイルを保った品格のある無伴奏ソングなのだ。"Lough Erne Shore", "The Green Fields Of Canada", "Johnny I Hardly Knew Ye" 他全 12 曲。Rosa)
- *DONALL DONNELLY: Tremolo B
 (カンティ・タイム出身のフィドル奏者、D. Donnelly の、既に大物級のデビュー作。見開きジャケット全面がフィドルのデザイン。それも年季の入ったフィドル。こういう意匠だけで音楽の質の高さが推し量れる。音楽は正にその通りで、フィドルの重ね録りやパワーズとの競演やハンズオンとの競演等様々な試みを行って、フィドルをフィーチャーしたアイリッシュ・ミュージックの魅力とその世界を堪能させる。2012 作。Donall Donnelly)
- *FREEWHEEL: Fergal Scahill, Sean McCarthy & David Howley A
 (フィドル名手 Fergal Scahill とリアン・パイプス名手 Sean McCarthy にギター若造 David Howley をリズムに加えた新スーパー・アイリッシュ・グループによる本作は、手腕の利いた演奏で、テンポのよいスリリングで気分爽快なアイリッシュ・ダンス曲とテンポを緩めたユーモラスなアイリッシュ・ダンス曲をほぼ交互に演奏する。スーパーだからと言って、突っ走るだけではなく、ユーモラスな曲も演奏するところが、彼らの本物度を示している。2012 作。Freewheel Music)
- *GERRY HARRINGTON: At Home B
 (ケル南部から登場のフィドルの Gerry Harrington の本作は、Padraig O'Keefe や Julia Clifford & Denis Murphy や Jackie Daly 等のスリー・ブルー・クラの音楽と Michael Coleman やトニー・コールの Neil Neilie 等の 100 年

近く前のフィドルの偉人の音楽。この洪さと味わいの力は物凄い。洪さの中に美しさのある見事なアイリッシュ・フィドル・ミュージックだ。2012 作。Gerry Harrington)

*LAURA TANSEY AND JOHN DALTON:The Harp And The Lark A

(クラシック畑の著名シンガーの L. Tansey によるアイルランドの名曲集。伴奏は J. Dalton のハープ。クラシック畑の音楽はあまり興味をそそられないのだが、彼女のか細くて涼やかな Laura の唄は流しっぱなしにしていると、不思議と心地よい。本当に肌に心地よい涼やかな風のような唄なのだ。ハープも「しゃかりき」ではないのが、唄の雰囲気合っている。「庭の千草」や“Star Of The County Down”他、超有名曲ばかり全 15 曲。Harplark)

*DOIMNIC MacGIOLLA BHRIDE & GRIOGAIR LABHRUID

:Guailibh A Cheile

B

(ジャンプ・シンガーの Doimnic とスコットランドの若手がロック・シンガーで各種バグパイプ奏者の Griogair による Gaelic Song の絶品の共演・競演。伴奏は各種バグパイプ、クラサッハ{スモール・ハープ}、フィドル、ギター。必聴!!!2010 作。DUN1001)

*JOHN SPILLANE:A Rock To Cling To C

(欧米の SSW の中でも屈指の SSW の John Spillane の唄が始まるや、いつも John Spillane 一色。いつものことながら、うたい方は知性的で、一見穏やかで静かだが、発せられたうたそのものは熱く、言葉の力、詩の力を思い知らされる。天下一品。w. Pauline Scanlon, Donogh Hennessy, Brendan O'Sullivan, etc. 2011 作。EMI)

*DANNY MEEHAN:Drimalost and Beyond D

D

(副題“Traditional Fiddle Music From Donegal”。1924 年、西部トニゴールの Drimalost という村の生まれのフィドル奏者の 2 枚組。ディスク 1 が 2007 年の録音で、ディスク 2 は古い録音{ただし最後の 3 曲は 2008 年}で、大半がすっぴんのフィドルの音。全 73 曲。これほどフィドルが自由にうたい、躍るアイリッシュ・フィドル音楽を聴いたことがない。Danny 自身を例えるなら野生の鳥。分厚いブックレット付。ジャケットを見て、「ただの田舎のじいさんフィドラーか」と思ったら大間違い。2011 作。CNF008)

*PADDY O'BRIEN:Mixing The Punch A

A

(Sailor's Cravat で、アイリッシュ・バンドとして、ヴォーカルを含むグループ音楽の楽しさを示した Paddy だが、本作は 1947 年製のボタン・アコーディオンによる妙技を軽妙に披露した音。2011 作。New Folk)k

*THE SAILOR'S CRAVAT:The Sailor's Cravat A

A

(Paddy O'Brien の新ユニット。メンバーは Paddy に Tom Schaefer {フィドル}, Paul Wehling {フズキ} に Paddy の奥方の、シンガーで小説家 {の Erin Hart の四名。Sean Ryan や Paddy Fahy 等のフィドル奏者作曲のダンス曲等を含む様々なダンス曲をアコトの深く、多様な表情で楽しませる。もうこれは熟練の技、あうんの音楽としか言いようのない螺旋模様を描いて舞うアイリッシュ・ダンス・ミュージックの連続。2011 作。New Folk)

*GOUGH, CLANCY, BRACKEN & McCARTHY

:Sessions Found 1995-2002

A

(1994 年の 11 月にフェスで出逢ったことがきっかけで結成された Danu のオリジナル・メンバーの Donnchadh Gough {ハープ}, Donal Clancy {ギター},

Daire Bracken{フィドル}, Benny McCarthy{アコーディオン, ムンデーション}による
1995-2002 間の空前絶後のセッション集。2011 作。GCBMC095)

- *NORAH RENDELL & BRIAN MILLER: Wait There Pretty One A
(アイルランドのテレビ局 TG4 の Irish Traditional Music Awards で
“Vocalist Of The Year” 賞授賞の Outside Track のヴァーカル&アイリッシュ・
フルート奏者の Norah とギター奏者の Brian Miller の 2007 年のアルバム。親し
みやすいアイルランドの伝統歌の数々をうたう Norah のシンギングは誠実
で優しく、またまっすぐで、春の涼やかな風のように気持ちよい。
ロバート・バーンス 収集のスコットランドの子守唄“Oh, Can Ye Sew Cushions?”
で静かに幕。Two Tap)
- *ALLAN KELLY GANG: Small Towns And Famous Nights A
(アコーディオン名手の Alan Kelly が Alan Kelly Gang{メンバーは Tola Custy
=フィドル, Steph Geremia=フルート, ホイッスル, ヴァーカル, Tony Byrne=ギター}を結
成。このギャング達の音楽はアイリッシュ・ダンス曲のコアの音楽をしっかりと
踏まえた上で、スコットランドやニューファンドランドの音楽までも取り込みなが
ら、新時代のアイリッシュ・ミュージックとして、ヴォリュームのある音楽を創作。
2011 作。BBM006)
- *SEAN O RIADA: O Riada Sa Gaiety B
(リマスター再発盤。w. Ceoltoiri Chualann&Sean O Se. 1970/2005 作。
Gael-Linn)
- *SEAN MOLONEY: Where's Me Cap A
(Patrick Kavanagh の小説“Tarry Flynn”の音楽劇の音楽。全曲アイリ
ッシュ・フルート奏者の S. Moloney による各種アイリッシュ・ダンスの形式、それも
1930 年代の形式の音楽で、フルート、フィドル、ホイッスル、ハープ、ピアノによるダ
ンス音楽は、現在のアイリッシュの大元の音楽というか、基本形で、素朴で、
ある種牧歌的。1930 年代に米国で一世を風靡したアイリッシュ・アメリカンのア
イリッシュとは対照的な、別の意味で大衆的で、健やかなアイリッシュだ。2011
作。Sean Moloney. CD-R)
- *TARAB: Tarab A
(Emer Mayock {フルート、ホイッスル、リアン・ハーツ}, Nick Roth {サクソフイドル},
Francesco Turrisi {アコギ}, Kate Ellis {チェロ}, Robbie Harris {ハープ})
の五人組が織り成す音楽は、まるで Andy Irvine&Davy Spillane
の“East Wind”のような音楽。これが 20 年前の発売だったら、驚異の
ケルト+東欧音楽の異種融合音楽。2011 作。Taquin)
- *SEAN TYRRELL・KEVIN GLACKIN・RONAN BROWNE
: And So The Story Goes... A
(S. Tyrrell はフォーク・シンガーとして、K. Glackin はフィドル奏者として、
R. Browne はリアン・ハーツ奏者として、既に名声を得ているアイルランドの
巨人三人によるうた。ゲスト: Fergus Feely, Jimmy Fitzgerald, Paul
O'Driscoll。全 15トラック。P20 のブックレット付。2011 作。Clo Iar-Chonnacht)
- *SEAN TYRRELL: The Best Of Sean Tyrrell B
(14 曲収録のベスト盤。Featuring Davy Spillane。2004 作。ARC Music)
- *SKIRM & DEZI DONNELLY: Welcome B
(二枚発見。副題“Live In Hamburg”。1995 作。Magnetic Music)
- *JOHN SPILLANE: The Wells Of The World (Hummingbirds) C
- *JOHN SPILLANE: Will We Be Brilliant Or What? (2002 作。EMI) C

- *JOHN SPILLANE:Hey Dreamer G
 (ジャン・ノース・スタイルの歌唱法を活かしたリズムカルで粘着力のあるシンキングの呪術力ある不思議な快感に加えて一人遊ぶようなリズムカルなギターの美しさと楽しさは一度聴くと病みつきになる。2005 作。Hypertension)
- *ADRIAN McAULIFFE & CATHAL FLOOD:Between The Strings A
 (ケリー・バンド・チャンピオン of the Allow Ceili Band のバンジョー奏者の Adrian のバンジョーをジャズ、レゲエ、ロックにも影響を受け、かつアイリッシュ・ミュージックに造詣が深いアイリッシュ・ギター奏者の Cathal が控えめながら遊び心あるギターでバックアップしたり、お付き合いしたりの、心ウキウキなバンジョー&ギター音楽。Adrian のバンジョーの演奏は天才的。2011 作。AMCF01)
- *ROBERT DOYLE:Life In Shadows A
 (ダブリンのフィンガー・スタイルのギター奏者でシンガー、R. Doyle のデビュー作。Pierre Bensusan の門下生という彼のギター弾き語りは一種独特の世界を創作。Bert&John をモデルとする彼独特な、深いところでアイリッシュスピリットがみなぎるフォークギターミュージックの世界を生み出している。2011 作。Robert Doyle Music)
- *FLYING TOADS:In Stitches A
 (Flying Toads はイギリスのセックスで結成された紅一点の Val Marciandi がヴォーカルの 4 人組アイリッシュ・グループ。楽器編成はイアン・ハイフス、スモール・ハイフス、シタール、ブスーキー、フィドル、ホイッスル、フルート、コンサーティーナ等。彼らのアイリッシュはどこか古い。ヴォーカが女性になった Planxty のようなアイリッシュ。2010 作。Flying Toads)
- *BRONGAENE GRIFFIN:Three Colours Ginger A
 (アイリッシュ・フィドルを Kevin Burke に師事という米国ポートランド [K. Burke の居住地] の女性アイリッシュ・フィドラーのデビュー作。アイリッシュ・ギター名手の Gerry O'Beirne {元 Patrick Street} があの手この手で、バックアップしていて、実質的には二人のデュオ・アルバム。Kevin は二曲でセカンド・フィドル+ヴォイスで応援。丁寧な演奏が実に気持ちいい。2010 作。Loftus)
- *JIM MacARDLE, EILIS QUINN AND MICK DUNNE
 :Madam, I'd Like To Be Tossin' Your Hay A
 (1970 年代、Jim MacArdle はカウンティ・ラウスに住む友人のトラッド・シンガーでコンサーティーナ奏者の Mary Ann Carolan {Mary の父親 Pat Usher は著名なジャーマン・コンサーティーナ奏者} と親交したという。本作は Jim が 70 年代、80 年代にラウス中部～南部で収集した古き良き伝統音楽を Jim {ギター、ヴォーカル}、Eilis {アコ}、Mick {バンジョー} のトリオで演唱したもの。砂漠でオアシスのアイリッシュ。全 17トラック。LLM)
- *DES CAFFERKEY:Achill Air A
 (生まれるとすぐに演奏を始めたというホイッスルとフルート {両楽器でチャンピオン奏者} の演奏家で Mayo School Of Music でアイリッシュ・フルートの教師を務めるホイッスルとフルートをフィーチャーした Des の二枚目。本作は収録曲全曲伝統曲。スロー・テンポな曲を前半にまとめるという曲順で、前半で心身をほぐし、すっかりリラックスさせ、中盤から躍らせ、舞い上がらせるという構成。職人ウザ。w. Peter Browne, Paul McGrattan, Tony Byrne, Trevor Hutchinson, Laoise Kelly, Gerry O'Connor, Tony Quinn. Azteca)

- *THE HIGH KINGS:Live In Ireland B
 (Finbarr Clancy {Clancy family}, Martin Furey {Finbar Furey の息子}, Brian Dunphy {Sean Dunphy の息子} としてブロードウェイのスター、Darren Holden の 4 人組 High Kings の期待通りの圧巻ライブ。泣き笑いの名曲が全 16 曲。2011 作。Celtic Collections)
- *CIORRAS:Silver Lining A
 (アイルランド語放送局 TG4 の Donal Lunny の番組で結成された 7 人編成のアイリッシュ・トラッド・グループ Ciorras {雲の形の“巻雲”の意} のひと回りスケールの大きなデビュー作。楽器編成はフィドル、コンサーティーナ、各種フルート {フルート奏者 3 名。コンサーティーナ奏者とパイプ奏者がフルートも演奏}、リアン・パイプス、ホイッスル、ピアノ、パーカッション、バウロン、ギター、アコースティックベース、そして Ciara Cunningham 嬢のヴォーカル。彼らのアイリッシュは世界レベルを旨ざすアイリッシュ。2010 作。Wispy Cloud)
- *FUTURE TRAD COLLECTIVE:Future Trad Collective A
 (Michael McGoldrick {リアン・パイプス、フルート、ホイッスル他}, Ian Fletcher {各種ギター、プログラミング}, Andy Dinan {フィドル/オール・アイルランド・フィドル・チャンピオン} のニュー・プロジェクト。彼らが創作する音楽はケルト音楽の持つリズムとエキゾティズムをワールド・ミュージック感覚で膨らませた音楽。w. Maeve Mackinnon, Dermot Byrne, etc. 2011 作。Vertical)
- *SHAUN DAVEY:Voices From The Merry Cemetery a
 (アイルランドの作曲家の Shaun Davey プロデュースによるアイルランドの音楽家 {Liam O'Flynn, Rita Connolly, Rod McVey, Neil Martin, Noel Eccles, Gerry O'Beirne} とルーマニア・トランシルヴァニアの男性コーラス・グループ & 楽団との文化交流音楽。本作は 2009 年と 2010 年にルーマニアの教会で行ったコンサートのライブで、アイリッシュ・サウンドによる東欧風男性コーラスは、古代ケルト教会音楽のようでもある。音楽の深いところで通底し、響きあう。2010 作。Tara)
- *JOE HOLMES:Here I Am Amongst You With Len Graham B
 (副題:Traditional Irish Songs, Ballads, Lirlts & Fiddle Tunes。全 14 トラック。Len Graham のサイン入。CD-R。2010 作。Carnagh Music)
- *MICHELLE O' BRIEN & LAOISE KELLY:The Wishing Well C
 (クレア出身で Tommy Peoples の教え子フィドラーの Michelle と天下一品のアイリッシュ・ハーブ奏者 Laoise とのライブ。2010 作。Laoise Kelly)
- *BLACK ROSE ROISIN DUBH:White Rabbit A
 (アメリカの男性 5 人組アイリッシュ・バンド。楽器編成はリアン・パイプス、ホイッスル、フィドル、ギター、バウロン、シタール、ベース、ヴォーカル。彼らのアイリッシュは独特。タブラー・システムのアリッシュ・フォークをベースに野太く、エネルギッシュに演唱した大砲級アイリッシュ。音楽の力とうねるドライブ感そして勢い任せのリリキングとヴォーカルはもの凄。これほどロッキングなエネギーに満ち溢れたアイリッシュは久しぶり。2010 作。My Back Room)
- *BRENDAN BEGLEY & CAOIMHIN O RAGHALLAIGH
 :A Moment of Madness A
 (Seamus Begley の弟で、Boy Of The Lough の一員でもあり、屈指の伝統的アコーディオンの奏者兼トラッド・シンガーの B. Begley と現在最も意欲的な活動を行っている伝統的アイリッシュ・フィドル奏者の C. O Raghallaigh のお二人による本作はまるでアイリッシュ・ミュージックの酸いも甘いも知り尽く

した天才奏者二人が余裕綽々と音楽で遊び魂を響かせたような音楽。これ以上の伝統的アイリッシュ・ミュージックは望めない。2010 作。An Irish Music Net)

*JOE DERRANE WITH JOHN McGANN:Grove Lane a
(既に 1940 年代後半から米国のボストンのレーベルでレコーディングを行っている米国のアイリッシュ・アコーディオン奏者の大物{Irish Echo's で 2010 年のトップ 伝統音楽家に選出}の軽やかな 2010 作。2010 作。Compass)

*COLIN FARRELL:On The Move A
(両親がアイルランド人で、イギリス・マンチェスター生まれのフィドル奏者でホイッスル奏者の恵まれたデビュー作。プロデュースを含め、ホイッスルの先生の Michael McGoldrick が全面協力。で、生まれた音楽は Michael McGoldrick スタイルの疾走感のある今日的アイリッシュ。John Joe Kelly, Donald Shaw, Ewen Vernal, Peter Browne, Andy Seward 等の超一流の共演者達の名演奏に乗っかって滑るようにフィドルを奏で、ホイッスルを吹く、何とも気持ち良さそうに。Colin Farrell Music)

*STEVIE DUNNE>About Time A
(副題"Traditional Musiv On Tenor Banjo"。アイリッシュ・バンジョーの音楽は同じアイリッシュをやっても、どこかのどこでユニークな風合いを奏で出すが、この Stevie なるバンジョー奏者による本デビュー作は実に楽しい。ピクニックな気分の音楽や上品そうだとぼけた感じの音楽やアクロバティックなはや弾きで楽しませ躍らせる、かと思えば、今度はテナーギターに持ち替えて、スマートな音楽で気分を爽やかにしてくれる。いやなこと、一切吹き飛ばしもしてくれる魔法の音楽。2010 作。Stevie Dunne)

*GERRY O' BEIRNE & ROSIE SHIPLAY
:Yesterday I Saw The Earth Beautiful B
(元 Patrick Street で SSW で名ギター奏者の Gerry O' Beirne の本作は Rosie Shiplay なる無名の女性フィドル奏者 Rosie とのデュオ・アルバム。テリットな感受性に富む G. O' Beirne の唄とギターは個人的に思い入れがあるが、本作でも彼らしい美しく細やかなギター演奏による心痺れる唄に惹き込まれる。2010 作。Shipwhistle)

*BIRKIN TREE:Virginia C
(Birkin Tree はイタリアのアイリッシュ・グループだが、アイリッシュ・フルート、フィドル、アイルランド・ピアノ、ギター、ブラス、ホイッスル、ピアノ、パーカッションにより構築されるアイリッシュは憧れの気持ちも加味されてか、艶やか。Martin Hayes&Dennis Cahill が 2トラック、7 曲で共演。2010 作。Felmay)

*BILLY CLIFFORD:Echoes of Sliabh Luachra B
(父母が John&Julia Clifford で叔父が Denis Murphy という生え抜きの伝統音楽一家に生まれ育った Billy Clifford のスピンオフのフルート・ソロ。Billy はシュリーヴ・ルーア地方の音楽スタイルに、豊かなヴァリエーションを加え、新たなローカル・ミュージックを創作している。数曲で Maire Begley のピアノとの共演もあるが、フルートの演奏が手に取るようにストレートに鑑賞できる演奏は見本演奏、記録演奏としても貴重。他の楽器とセッションで演奏したら、ウキウキするようなダンス曲ばかり。2010 作。WMC001)

*BRIAN FINNEGAN:The Ravishing Genius Of Bones A
(Flook のホイッスル&フルート奏者 Brian Finnegan の二枚目は彼ならではのハ行くと型破りな柔らかな感性に裏打ちされた万華鏡的笛アルバム。アイ

ッシュ・スタイルの奏法を駆使しつつも、アイリッシュ・ミュージックの枠を超えた生き生きとした音楽は正に職人ワザで、超絶。w. Ed Boyd, Ian Stephenson, Aidan O'Rourke, John Joe Kelly, Danien O'Kane, Leon Hunt, etc. 2010 作。Singing Tree)

*TWO TAP TRIO:A Night At The Fair A
(アメリカのアイリッシュ・トリオ。メンバーは Norah Rendell {彼女はカナダ人。フルート、ヴァーナル}, Nathan Gourley {フィドル}, Brian Miller {ギター、ブラスキー}。アイリッシュ・フルートの Norah は Catherine McEvoy やイアン・ハーフス奏者の Mickey Dunne に教えを請い、Brian Miller は本場で腕を磨いたという。あの手この手で様々なアイリッシュを楽しませる。2010 作。Two Tap)

*LE CHEILE:Out Of The West A
(70 年代、ロンドンで結成されたアイリッシュ・ミュージック・グループ "Le Cheile" の 70 年代ロンドンのアイリッシュ・ミュージックのスモーキーな空気たっぷりの演奏はアイルランド本土の古いアイリッシュや 20 世紀初めのアイリッシュ・アメリカンのアイリッシュの味わいを発散する。2010 作。White Hart Music)

*DAN POSSUMATO:Pulling Out The Stops B
(米国のポートランドとアイルランドのクレアそしてアラスカで収録されたアイリッシュ・アコーディオン奏者の D. Possumato の本作はクレアの音楽や古い世代が好きな古い音源のアイリッシュ・チューン等を自分の心の音楽のように愛情深く、しかし音楽は今日のアイリッシュのように澁刺と演奏する。w. Kevin Burke, Mick Mulcrone, Teresa Baker, Quentin Cooper, etc. 2010 作。Old Box)

*BRENDAN O' SULLIVAN:Took A Notion B
(Riverdance のフィドルの Brendan はかれこれ 30 年間フィドルを演奏し、20 年間プロ活動をしているという。彼の音楽のイメージは凄い。アイリッシュは古臭いものから泣き節、かつまたスマートなものまでばっちり演奏し、その上にブルターニュの曲やラテン音楽や化粧したアイリッシュなどを盛り込む。新たなアイリッシュの創作意欲と音楽のアプローチが多過ぎて、一枚の CD には収まらなかった、という印象の色とりどりのアイリッシュ。2010 作。Brendan O' Sullivan)

*WILLOS':Dirt Tracks B
(2001 年結成で、本作が五枚目というアイルランド、アメリカ、イタリアの五人編成アイリッシュ・グループ。アイリッシュはフィドルの Stephanie Martin のみで、ヴァーナルの Alice Reynolds はアメリカ人で、ジャズ・ヴァーナルの教師でもある。ギター & ブラスキー、フルート、バウロンの男性三名はイタリア人。彼らのアイリッシュは耳に新鮮。一癖ある音を加えたり、地中海サウンドを響かせたり、かと思えば、コアのアイリッシュで楽しませたりもする。w. Liz Carroll, John Doyle. 2009 作。Soundsdifferent)

*SEAN MAGEE:Ye Fiddlers Fate B
(オール・アイルランドのフィドル部門の若きチャンピオンのデビュー作。フェアマナの古い希少曲を多く含む本作はどこか涼やかな風が感じられるアイリッシュ・フィドルの快作。CD-R。2009 作。Sean Magee)

*TOMMY KEANE:The Piper's Apron a
(イアン・ハーフス奏者 T. Keane の 91 年作。w. Brendan O' Regan {ブラスキー、ギター}, Jacqueline McCarthy {コンサティナ}, Henry Benagh {フィドル}, Paul Grant {ギター}, Tommy Hayes {バウロン}, Michael Hynes {フルート}。Mulligan)

- *FRANK HARTE: The Essential Irish Series Volume 4 A
 ("Dublin Street Songs Through Dublin City" {副題 "Traditional Songs Of The Dublin Streets"} と "There's Gangs Of Them Digging" {"Songs Of Irish Labour"} の二枚組セット。2009 作。Daisy)
- *TOMMY HAYES: An Ras a
 (再発。バウロ奏者 T. Hayes の 91 年作。w. Alasdair Fraser, Nuala Ni Dhomhnaill, Micheal O Dombhnaill, Brian Dunning, etc. Mulligan)
- *TOMMY HAYES: An Ras (英国盤。Mulligan) B
- *BRENDAN O' REGAN: A Wind Of Change a
 (再発。ブスーキ、マントリン、ギター奏者の 92 年作。w. Maire Breathnach, Tommy Hayes, Gerry O' Connor, Ciaran Tourish, Alec Finn, etc. Mulligan)
- *A FEAST OF IRISH FOLK C
 (CD+DVDセット。CD は Sharon Shannon, Bothy Band, De Dannan, Mary Black, Emmylou Harris and Dolores Keane, Frank Harte, Donal Lunny & Christy Moore, Seamus Begley & Jim Murray, Danien Dempsey 等の編集盤で、全 13 曲。DVD は PAL 方式で全てライヴ映像で、Robbie O' Connell/Mick Moloney/Jimmy Keane の "Kilkelly", Mary Black/Emmylou Harris/Dolores Keane の "Sonny", Sharon Shannon & Band の "Blackbird", De Dannan の "The Humours Of Galway" の全 4 曲。2009 作。Daisy)
- *FAOI BHLATH: Faoi Bhlath C
 (2006 年に "Sheridan's Guesthouse" というアルバムを発表したフィドル奏者の Dave Sheridan とアイルッシュ・フルト奏者の Ciaran Somers と Arcady, Orion, Kornog 等参加のフルト・ニュー人ギター/シタン奏者 Nicolas Quemener の見事なスパーセッション。w. Johnny "Ringo" McDonagh。絶品。2009 作。Folkroads)
- *BLACKTHORN BAND: The River That Runs Below A
 (Blackthorn Band はイギリスのアイルッシュ・グループ。メンバーは Sarah Mooney {フルト、ギター}, Philippe Barnes {フルト、ギター、ホイッスル}, Alex Percy {フィドル、ギター}, Fergus McClelland {ヴォーカル、ブスーキ他}, Mannie McClelland {ヴォーカル、コンサティーナ、バウロン}。レパートリーは Noel Hill & Tony Linnane や Jackie Daly や Mary McNamara 等の演奏から学んだ曲等を清々しい演奏で楽しませる。2008 作。Hobgoblin)
- *ELEANOR SHANLEY: The Essential Irish Series Volume 3 A
 (Eleanor Shanley & Ronnie Drew "El Amor De Mi Vida" と Eleanor Shanley & Ivan Leparr "Another Day's Journey" の二枚組セット。2009 作。Daisy)
- *JACKIE DALY: Music From Sliabh Luachra ¥1790
 (Topic より紙ジャケ、リマスターにて再発。77 作。Topic)
- *JACKIE DALY: Music From Sliabh Luachra B
 (1977 年のデビュー作。Ossian {アイルランド盤})
- *JACKIE DALY: Many's A Wild Night B
 (w. Maire O' Keefe, Paul De Grae, Garry O Brian。95 作。Gael-Linn)
- *ANDY IRVINE・PAUL BRADY: Andy Irvine・Paul Brady a

(アイルッシュ・トラッドの名盤中の名盤。アイルッシュ・トラッドを中心にした伝承歌を Andy と Paul はそれぞれベースとギターの緊張感ある絶妙な伴奏で伝承歌の世界へと誘う。ゲスト:Donal Lunny&Kevin Burke。76 作。Compass/Mulligan)

- *ANDY IRVINE・PAUL BRADY:Andy Irvine・Paul Brady B
(76 作。Mulligan{英国盤})
- *MATT MOLLOY:Matt Molloy a
(Produced by Donal Lunny&Micheal O Domhnaill。名盤。76 作。Compass/Mulligan)
- *MATT MOLLOY:Matt Molloy(76 作。Mulligan{英国盤}) B
(76 作。Mulligan{英国盤})
- *MATT MOLLOY:Stoney Steps(88 作。Claddagh) B
- *MATT MOLLOY・PAUL BRADY・TOMMY PEOPLES
:Matt Molloy・Paul Brady・Tommy Peoples B
(78 作。Mulligan{英国盤})
- *MATT MOLLOY, SEAN KEANE, LIAM O' FLYNN:The Fire Aflame B
(92 作。Claddagh)
- *KEVIN BURKE&MICHEAL O DOMHNAILL:Promenade a
(w. Triona, Donal Lunny, Declan Sonnott。宝物。79 作。Compass/
Mulligan)
- *KEVIN BURKE&MICHEAL O DOMHNAILL:Promenade B
(79 作。Mulligan{英国盤})
- *KEVIN BURKE&JACKIE DALY:Eavesdropper B
(w. Paul Brady, Philip Begley, Conal O Grada, etc. 81 作。宝物。
Mulligan{英国盤})
- *MARIA McCOOL:Doagh~An Odyssey Of Irish Song B
(北西ドノコールのGweedore というゲール語地域の女性ゲリラック・ソングの二枚目。北ドノコールに位置する半島 Doagh をタイトルにした本作は、ゲール語による伝統歌を中心にした選曲で、アイルッシュ・ソングの美しさを損なうことなく、ナチュラルな歌唱法で美しくうたったもの。伴奏はピアノ。全 16 曲。2009 作。Ambush)
- *DONAL MURPHY:Happy Hour B
(この Donal なるアコ奏者のデビュー作はアコパティックなアコ演奏の妙技が矢継ぎ早。ホルカ、リール、スライド、ホーンパイプ、ジグ、エア、ラグそして混ぜこぜ音楽を材料にアイルッシュ・ダンスのリズムの多彩さと愉快さを見せつける。共演者は S. Cooney, Tim Edey, Brian McGrath そして Donal の家族。まさにタイトルを裏切らないひと時が過ごせますよ。2009 作。DMR001)
- *GARRY SHANNON・ORFHLAITH NI BHRIAIN:Lose The Head A
(Sharon Shannon の兄さんでフルト奏者の Garry と女性アイルッシュ・ソングの Orfhlaith の 89 年作が CDR にて再発。w. Sharon Shannon, Mary Shannon, Majella Shannon, Steve Cooney, Eoin O'Neil, etc. GTD Heritage)
- *JO CHEDGEY:D' Anam Alainn C
(アイルランド・ウォーターフォード出身の女性 SSW の Jo の本作は、アイルランドへの美しい想いが素直に唄になっていて、彼女の想いや思い出と一緒に旅する気分。化粧っ気なしのスピンの唄が唄の鮮度を落とすことなく

聴き手の心に沁み渡る。現在英国暮らしの Jo が、故郷を離れて輝きを増す Jo の珠玉の唄たちだ。2009 作。Osmosy)

*KARL NESBITT:Vistapoint

B

(フルート&ブラス奏者の K, Nesbitt のオセンチックなアイリッシュからコンテンポラリーなアイリッシュまでアイリッシュを色々料理したり、創作したりする。アイリッシュ専門のアレンジャーやサウンド・プロデューサーとして才能を有する若きクリエイターだ。Niall Connolly がヴォーカルの“Don't Be Blue”と John Spillane がヴォーカルの“Ag an gCoisir”は SSWファンには絶句の二曲。ここで聴く Niall と John の唄は同一人物のように似ている。w. John Spillane, Niall Connolly, Mairead&Sean Nesbitt, Edel McLaughlin, Marien Collins, Seamus Gibson 他。Karl Nesbitt。2009 作)

*THE SAW DOCTORS:Live At The Melody Tent

B

(アイルランドのフォーク・ロック・バンドの雄、Saw Doctors のライブ・アルバム。録音は 2008 年の夏。unrigクラスの魂揺さぶるフォーク・ロック。2008 作。Shamtown)

*THE SAW DOCTORS:All The Way From Tuam(1992 作。Shamtown)B

*THE SAW DOCTORS:Villains?(2001。Shamtown)

B

*BUA:An Spealadoir

A

(米国の大型アイリッシュ・バンド。ゲーリック・シンガーの Brian O hAirt のシンギングはヴォイス・コントロールが見事で、特に静寂な味わいのシンギングはダントツに素晴らしい。加えて、フルート、フィドル、ブズーキ、イリアンパイプス、ギター、ホイッスル、バウロン、ギターなどによるアイリッシュは天下一品。ゲスト: Deirdre Scanlan{Solas}。2008 作。Mad River)

*MARANNA McCLOSKEY:At Last

C

(Cara Dillon の前の Oige のヴォーカルだった Maranna のソロ。Maranna は Cara 風の、ジャンルを超えて魅する透明感ある声質を持ちつつ、伝統音楽回帰的足元の確かさを持った大型アイリッシュ・シンガーだ。w. Eric Rigler {イリアン・パイプス、ホイッスル}, Brian Baynes {ギター、ピアノ、マンドリン他}, etc. 2008 作。McCloskey Music)

*DAN MILNER

:Irish Pirate Ballads And Other Songs Of The Sea B

(アイルランド系アメリカ人で、アメリカの Frank Harte 的存在の伝統歌収集家で、ウェスタン・トラッド・シンガーの D. Milner の本作にはアイルランド移民の物語のほか海賊や奴隷の歌など様々な物語が収録されている。w. Mick Moloney, John Doyle, Joanie Madden, Tim Collins, Susan McKeown, Brian Conway, Gabriel Donahue, Robbie O'Connell。P38 のブックレットには詳細なイカグラフィックと曲目解説等が収録。2009 作。Smithsonian Folkways)

*DENIS CAREY:Moving On

C

(Brook McGuire Band のピアノ奏者で作曲家の D. Carey の 2 枚目。本作は全曲本人の自作曲だが、どれもがイア曲を含め、アイリッシュ・ダンス曲の形式の音楽。彼の音楽性はケリー・バンド風から Riverdance 風まで、アイリッシュの土俵の上で幅が広い。そういう意味では、アイルランド人の心を揺さぶる音楽と言えよう。Mairtin O' Connor, Zoe Conway, Tommy Hayes, Paul Brock, Manus McGuire, Enda Scahill, Kenneth Rice, Fergal Scahill 等共演者も充実で、あの手この手のアイリッシュ・マジック

- で聴き手を誘惑する。2008 作。Five Line)
- *SEAMUS CREAGH:Tunes For Practice D
 (遺作となったヴァイラン・アイリッシュ・フィドルの S. Creagh によるアイリッシュ・フィドル奏者の練習用模範フィドル演奏集。2 枚組。テンポの遅い曲調からノーマルな演奏へと徐々にテンポを上げてゆく。演奏の味を教えるどれもが正調?アイリッシュ・フィドル節だ。チューニングの話を除き全 36トラック。2009 作。Seamus Creagh)
- *THE NAVVY'S WIFE D
 (2 枚組。「人夫の妻」と題された本作は、アイルランド系イギリス人トラッド・シンガーの Mick Ryan によるフォーク・ドラマ。イギリスで鉄道や運河や道路の建設に携わったアイルランド移民の苦難や悲哀や希望や楽しみや喜びをアイリッシュやイングリッシュ・トラッドのスタイルでうたい、音楽を付けた大作。本作に参加したシンガーは M. Ryan, Jackie Oates, Paul Downes, Judy Dunlop, Heather Bradford, Roger Watson。2008 作。WildGoose)
- *LUKE PLUMB:A Splendid Notion C
 (オーストラリア人でスコットランドで活躍中の Shooglenifty のマンドリン奏者の Luke のソロはパーカッション奏者の James Mackintosh のサポートを得たマンドリン音楽。Luke は鮮やかなマンドリンの演奏で主にアイリッシュの著名伝統曲 ["Trip To Sligo", "O' Carolan's Receipt", "Sporting Nell", etc] に新たな命を吹き込んでいる。James のハウルの音域を倍にしたようなパーカッションの自在で多彩なリズムも楽しい。2008 作。Shoogle)
- *MOLLY'S REVENGE:The Western Shore a
 (John Doyle がプロデュースの本格的ケルティック・ミュージック・アルバム。アンサンブルの醍醐味と味わいはアイルランドやスコットランドのトップ・バンドの風格。ダンス曲を中心とした演奏のみならず、2 曲でヴォーカルを取る Moira Smiley のしっとりとして凜としたシンギングが素晴らしい。Paul Brady の名唱でお馴染みの "I Am A Youth Included To Ramble" はトラッド・ファンを骨抜きにする。北米に凄いバンド。2008 作。Molri Music)
- *MOYA BRENNAN:Heart Strings B
 (Clannad の Moya の本作は Clannad 的優美さや夢幻さが漂うケルティック・ミュージック・アルバム。Moya のもとに集まったケルトの音楽家は、Fionan De Barra [ギター], Cormac De Barra [ハーフ], Paul Byrne [ハウル、ドラムス], Eamonn Galldubh, Sinead Madden [フィドル], Sam Jackson [キーボード], Yoshinobu Izumi [ベース] の 7 名。全 14 トラック。2008 作。オランダ MW)
- *PATSY O CEANNABHAIN:Fear Muinte Manla C
 (コネラの Patsy は他のシャン・ノース・シンガーからも尊敬されるシャン・ノース・シンガーの中の偉大なシンガーだという。本作は全て無伴奏シンギングだが、清澄なシンギングの数々は見事としか言いようがない。何かそっと引き付けるような感じのシンギングだ。ラ・サリーナでお馴染みの "Bean Phaidin" をラ・サリーナのシンギングを聴き比べてみるのも楽しい。2008 作。Clo Iar-Chonnachta)
- *PAUDIE CONNORS & JOHN O'BRIEN:Wind & Reed B
 (ケリー出身のアコ奏者 Paudie とダブリン出身のリアン・パイプ奏者 (Mick O'Brien は John の兄) によるアコとパイプによるアイリッシュ・リズム・パートは Jim Murray が担当。事実上 J. Murray も加えたトリオの音楽。アコもパイプもよくうたい、踊る。2008 作。PBCD1976)

- *KATHLEEN BOYLE:An Cailin Rua B
 (Dochas そして現在 Cherish The Ladies のアコ奏者 Kathleen のソロ。
 Kathleen はアイルランドのドニゴールが故郷でスコットランド育ち。ドニゴール中心
 のアイリッシュや自作のダンス曲を中心にスコティッシュの、もっともゲリック・ソ
 ングやメロディなど、スコティッシュ・トラッド・ファンの琴線に触れるトラッド曲を数曲
 加えた構成。w. J. Fowlis, H. Talbot, Jenna Reid, Ali Hutton, Kevin
 O'Neill, Martin O'Neill, Eamon Doorley, Hughie Boyle。2008 作。
 Kathleen Boyle)
- *GRIANAN:The Maid Of Erin A
 (スーパー・グループの Grianan の 93 年作。メンバーは P. J. King に Tommy
 Peoples, Siobhan Peoples, Paul McSherry, Kevin Crawford,
 Martin Murray, Pat Marsh, John Maloney そしてダブリンのゲリック・ソ
 ングの Niamh De Burca。余裕綽々の愁いを含みつつ、勢いのあるア
 イリッシュにただただ酔うのみ。Niamh De Burca の英語一曲、ゲール語一
 曲の清涼なシンキングは芳香を放っている。93 作。CDR。West Winds)
- *BILLY McCOMISKEY:Outside The Box a
 (こどもの頃から近所のアイリッシュ・センターでアイリッシュ・ミュージックに親しんで育
 ったヴァイオリン・ボタン・アコーディオン奏者の Triain II {1995 年} 以来の新作。w.
 John Doyle {プロデュサーでもある}, Liz Carroll, Joannie Madden,
 Athena Tergis, Mick Maloney, etc. 2008 作。Compass)
- *MARK DUNLOP:Islands On The Moon C
 (アイルランドの Antrim 生まれでスコティッシュ・トラッド・バンドの Malinky のソガ
 -兼ホイッスル&パウロン奏者の M. Dunlop の初ソロ。2008 作。Greentrax)
- *JIMMY DINNY O GALLCHOIR:Scal Ag Gabhail Don Cheol D
 (1921 年ドニゴール生まれのゲリック・ソングの 1950 年代と 1970 年代の音
 源の曲に、数曲、Altan の Mairead に Manus Lunny, Stephen Campbell
 が重ね録りしてお化粧をして編集された 9 曲入。2008 作。
 Clo Iar-Chonnachta)
- *THE GATHERING A
 (ライヴ)。Martin Hayes, Andy Cutting, Karen Tweed, Carlos Nunez,
 Kathryn Tickell, Brendan Power, Niall Keegan, Alisdair Fraser,
 etc. 97 作。Real World)
- *MUSIC AT MATT MOLLOY'S (92 作。Real World) A
- *JOSIE SHEAIN JEAIC:Connemara~Sean-nos (Cinq Planetes) C
- *MATT CRANITCH:Give It Shtick B
 (w. Dave Hennessy, Eoin O Riabhaigh, Brid Cranitch, Mick Daly,
 Colm Murphy。88/92 作。Ossian)
- *MANUS McGUIRE:Fiddlewings (2006 作。Shelly River Music) B
- *KEVIN BURKE:If The Cap Fits a
 (紙ジャケ、リマスターにて再発。w. Micheal O Domhnaill, Paul Brady, Donal
 Lunny, Jackie Daly, Peter Browne, Gerry O'Beirne。78 作。Compass
 /Mulligan)
- *BOTHY BAND:1975 (77 作。Compass/Mulliagn) a
- *BOTHY BAND:Out Of The Wind Into The Sun a
 (77 作。Compass/Mulliagn)
- *BOTHY BAND

- :Old Hag You Have Killed Me(76 作。Compass/Mulligan) a
- *BOTHY BAND:Afterhours(78 作。Compass/Mulligan) a
- *JAMIE SMITH, COLETTE O'LEARY & BRIAN KELLY
- :The Long Notes B
- (ハンゾーとマンドリンのオール・アイルランド・チャンピオン Brian Kelly に Bumblebees のアコ奏者の Colette O'Leary にスコットィッシュ・フィドル奏者の Jamie Smith の今ロンドンで活動する 3 人組。Sharon Shannon と Lunasa が大推薦。2008 作。The Long Notes)
- *DAMIEN DEMPSEY:The Rocky Road B
- (ハンラッドが自分のルートと言うアイリッシュ・フォーク・シンガーの Damien の本作は彼が 1990 年代にダブリン周辺のパブで良くうたったというトラッドの名曲やパブで人気だった唄をうたったもの。w. Sharon Shannon, Eamonn DeBarra, John McLoughlin 他。2008 作。Clear)
- *STEPHANIE MAKEM & TIARNAN O DUINNCHINN:Ceol Is Píob B
- (素晴らしい女性ゲリラック・トラッド・シンガーの Stephanie とリアン・パイブの Tiarnan のお二人によるゲリラック・ソングとパイブ演奏。w. Steve Cooney {ギター他}, Paul Meehan {ギター}, Feargal Murray {キーボード}。Tommy Peoples が推薦名文を寄せている。CB001)
- *PAUL McGLINCHEY:Unearthed B
- (1990 年代に 3 度オール・アイルランドのフルート部門チャンピオンの座に輝くタイロンのフルート奏者 P. McGlinchey の見事なフルート・ソロ。ロスカムのフルート奏者 Josie McDermott 作のリアル曲で軽快に幕開けする本作はアイリッシュ・フルートのマジックとでも呼びたい演奏の早業で、軽快さと鮮やかさで唸らせる。アイリッシュ・フルートの名盤中の名盤。2008 作。PMG001)
- *FRANK CASSIDY:Nil Gar Ann B
- (副題“Traditional Fiddle Music From Donegal”。1900 年トコゴール生まれ{1971 年没}のフィドル奏者 F. Cassidy の 1946~67 年の貴重音源から 35トラック。2008 作。CNF)
- *BEN LENNON & TONY O'CONNELL:Rossinver Braes C
- (Lennon Family のヴァン・フィドル奏者の B. Lennon とリリック出身でオール・アイルランドのコンサーティナ・チャンピオンのコンサーティナ奏者の T. O'Connell のデュオアルバム。2008 作。Clo Iar-Chonnachta)
- *DARREN CROSSEY:Coming Home ¥2090
- (アメリカ New Folk から発売されたアイルランド系フォーク・シンガーの 2003 年作。Christy Moore や Barry Moore 等のアイリッシュ・フォークやトラッド曲を Moore 兄弟タイプ of フォーク調で唄う。面白いのは大半の曲で唄とハモルように入っている Sean Conway のティン・ホイッスル。変拍子多彩で、空翔けるホイッスルの音色に心も飛ぶ。Sean Conway のティン・ホイッスルだけでも聴く価値あり。2003 作。New Folk)
- *ACROSS THE WATER C
- (旧譜。“Irish Music From England”。1994 年のヨーク大学 Traditional Music Festival でのライヴ。演奏は Andy Cutting, Brendan Ring, Karen Tweed, Julia Clifford, John Carty, Brian Rooney, Luke Daniels, Niall Keegan 他。全 20トラック。94 作。Nimbus)
- *DEAR OLD ERIN'S ISLE C
- (旧譜。“Irish Music From America”。1992 年のヨーク大学 Traditional

Music Festival でのライブ。演奏は Kevin Burke, Eileen Ivers, Seamus Egan, Liz Carroll, Jimmy Keane, John Williams, Tom Doherty, Seamus Connolly, Brendan Mulvihill, Billy McComiskey 他。全 20トラック。92 作。Nimbus)

- *FIL CAMPBELL: Songbirds B
(RTE 制作の 5 人の女性シンガー - {Delia Murphy, Bridie Gallagher, Margaret Barry, Mary O'Hara} の人生のドキュメンタリー・テレビ番組 "Songbirds~The First Ladies Of Irish Song" からトラッドの名曲中心の 15 曲。w. Sean Keane, Tommy Sands, Steve Cooney, Laoise Kelly, Rod McVey, Bill Shanley, Steve Wickham, etc. 2005 作。Glenshee)
- *SEAN TYRRELL: The Best Of... B
(“The Orchard” や “Cry Of A Dreamer” 等名作を発表してきた SSW の中の SSW の S. Tyrrell の 14 曲中半分が新録のベスト盤。2004 作。ARC Music)
- *COLM O' DONNELL: Heart Strings ¥1500
(スライターの名トラッド・シンガー Colm O'Donnell の 2 枚目はトラッドに限らず、何と V. Morrison の “Irish Heartbeat” や Hank Williams の “The Singing Waterfall” 等も含むタイトル通り“琴線に触れる”愛唱歌集。全 13 曲。w. Nollaig Casey, Mellisa Elliotte, etc. 2001 作。Sound)
- *TEAC A BLOC B
(副題 “Music From The Show”。同タイトルのショーの音楽だが、これが馬鹿にできない。Danu のアコ奏者の Benny McCarthy に Pat Ryan {フィドル}、John Nugent {ギター}、Des Dillon {ハモニカ} によるショーの音楽 {ゲリック・ソング 1 曲と英語の唄 1 曲を含む} はダンスパブルでわくわくするアイルッシュ。Benny のアコと Des のハモニカが本当に楽しい。2004 作。Openear)
- *BOHOLA: Bohola a
(Jimmy Keane {アコ}、Sean Cleland {フィドル、ヴァイオリン}、Pat Broaders {フズキ、ヴォーカル} から成るシカゴの Bohola の 2002 年作。Shanachie)
- *TAKUJI TAMURA & YUKIO KASHIWAGI: Strange But True ¥2380
(勿論日本人アイルランド音楽家の中でアイルランドのトップ・プレイヤーと同じ目線で評価できる数少ないアイルランド音楽演奏家だ。Anders Trabjerg との 2004 年作の “For The Same Reason” も素晴らしかったが、ギター、フズキ {フィドルも} 奏者の Y. Kashiwagi との本作はアイルッシュ・フィドル・ミュージックの芸術の域を感じさせるもの。アイルランド音楽の心を弓一本でここまで演奏できる音楽家はアイルランドにもそうはいない。感動覚めやらず...。2007 作。Takuji Tamura & Yukio Kashiwagi) &
- *FRANKIE GAVIN, RICK EPPING & TIM EDEY
: Jigging The Blues a
(F. Gavin の今度のお楽しみ会は F. Gavin 主宰のアイルッシュ・ミュージック・パーティーにブルース・ハーブ奏者の R. Epping が殴りこみ? した印象。パーティーは大盛況。二人の盛り上がりをあの手この手で支える T. Edey のギターの技も聴きもの。ギターにだけ耳を傾けても楽しい。F. Gavin はまだしばらくはアイルッシュの未踏のハイウェイを突き進めそう。2008 作。Greentrax)
- *FRANKIE GAVIN・PAUL BROCK: Omos Do Joe Cooley B

(英題“A Tribute To Joe Cooley”。1986 作。Gael-Linn)

*JIM McKILLOP:Tribute

C

(父親の John McKillop に捧げたホーンパイプと亡き John Cunningham の
霊に捧げた“John Cunningham’s Farewell”のモデルで幕開けするフ
イドルの巨匠 Jim の本作はアイルッシュとスコッティッシュを中心にハンガリーのダンス曲
や Ry Cooder に捧げた“Yellow Roses”など様々なスタイルの演奏で
楽しませる。一曲一曲が Jim の思い出の曲。全 30 曲で 23トラック。w. Pat
Conroy, James Quinn。2007 作。The Online Music School)

*CORA SMYTH:Are We There Yet?

B

(Lunasa の Sean Smyth の妹で“Lord Of The Dance”, “Feet Of
Flames”, “Celtic Tiger”のフイドル奏者の Cora の本作は色彩感ある
アイルッシュ・フイドル・ミュージックかな。2008 作。W. EDGE1)

*ARMAGH PIPERS CLUB “40th Anniversary Album”

D

(2 枚組 CD。上記パイパー・クラブの 40 周年記念アルバム。ディスク 1 が 21トラ
ック、ディスク 2 が 20トラックの計 41トラック収録。奏者は Brian Finnegan,
Cillian Vallely, Niall Vallely, Barry Kerr, Martin Meehan,
Leo McCann, Caoimhin Vallely [プロデューサーでもある] 他。P16 のフ
ックレット付。2007 作。Armagh Pipers Club)

*SARAH McQUAID:When Two Lovers Meet

C

(英国で人気が高まってめでたく再発。アイルッシュ・ギターでシンガーの Sarah
の本作を改めて聴くとトラッド・シンガーとして優美な芳香を醸してい
て、うっとり。w. Niamh Parsons, Trevor Hutchinson, Gerry
O’Beirne, John McSherry, Rod McVoey, etc. 97 作。Sarah McQuaid)

*BILL WHELAN:The Connemara Suite

B

(全曲 Riverdance の作曲家の Bill Whelan の作曲。演奏は Irish
Chamber Orchestra とソリストで参加する Zoe Conway {フイドル}, Colin
Dunne {ダンス・パーカッション}, Michelle Mulcahy {ハーブ}, Morgan Crowley
{ヴォーカル&リルティング}, Bill Whelan {リルティング} による音楽。チェンバー・オーケ
ストラの音楽の中に伝統音楽を組み込んだ壮大なコネマラ組曲。2007 作。
Tara)

*BOYS OF THE LOUGH:Midwinter Live

A

(Cathal McConnell, Dave Richardson, Brendan Begley, Malcolm
Stitt, Kevin Henderson から成る Boys による 2006 年 12 月のクリスマス〜
冬のムード いっぱいの心温まるライブ盤。全 15トラック。2007 作。Lough)

*GRANNE HAMBLY:Golden Lights And Green Shadow

C

(アイルッシュ・ハーブの第一人者。2003 作。Klang Welten)

*GRANNE HAMBLY:Between The Showers

C

(アイルッシュ・ハーブの第一人者。2005 作。Granne Hambly)

*GRANNE HAMBLY:The Thorn Tree

C

(アイルッシュ・ハーブの第一人者。2006 作。Granne Hambly)

*JANET HARBISON AND THE IRISH HARP ORCHESTRA

:A Christmas Collection

A

(多くのアイルッシュ・ハーブ奏者を世に送り出している Janet Harbison の
門下生オーケストラとゲストによるクリスマス音楽を中心にした厳かで華やか
なクリスマス音楽会の音楽。ハーブ・アンサンブルのみならず、ハーブ伴奏による
女性ギター・ソングやオール・アイルランド・チャンピオン若手パイプ奏者やフイドル

奏者もフィーチャーし、アイリッシュ・ミュージックの魅力を網羅的に展開する。ある種 Chieftains 的。全 16トラック。2006 作。Janet Harbison)

- *SHARON SHANNON: The Diamond Series Box Set ¥2890
(クリスマス・プレゼント用に製作された“Sharon Shannon”, “Out The Gap”, “Each Little Thing” 3 枚組ボックス・セット。2007 作。Daisy)
- *SHARON SHANNON: Spellbound a
(未発表音源 6 曲を含む 21 曲入編集 CD。98 作。Grapevine)
- *SHARON, GAVIN, McGOLDRICK, MURRAY: Tunes B
(アイリッシュの達人達による見事なセッション集。皆が帰るべき音楽の土俵の上で伸び伸びとアイリッシュ。実はグループの要はハ・カッシュなギターで熱風を浴びせるギターの Jim Murray。2005 作。Daisy)
- *FRANK HARTE: Daybreak And A Candle-End B
(Accompanied and produced by Donal Lunny。87 作。FoeTain)
- *FRANK HARTE&DONAL LUNNY: My Name Is Napoleon Bonaparte A
(F. Harte&D. Lunny のナポレオンにまつわるバラッド集。2 枚組で全 26 曲。音楽自体は素朴で、バラッドの魅力がそのまま味わえる仕上がり。P54 の解説書付。価値ある労作。2001 作。Hummingbird)
- *THE LIFE AND WORKS OF W. B. YEATS D
(2 枚組。read by Jim Norton, Denys Hawthorne, Nicholas Boulton and Marcella Riordan。2002 作。Naxos)
- *TIM DENNEHY: A Thimbleful Of Song (96 作。Sceiling) B
- *TIM DENNEHY: The Blue Green Door (2002 作。Sceiling) B
- *JAMES KELLY, PADDY O' BRIEN, DAITHI SPROULE
: Traditional Music Of Ireland (95 作。Shanachie) a
- *BRIAN McNAMARA: Fort Of The Jewels C
(ご存知リトムの伝統音楽一家 McNamara Family のリアン・ハイツ奏者の抜群のヨ。今現在彼ほどアイリッシュ・スピリット高く、体に染み込んだとしか思えない自然な抑揚を保持したリズム感で、この魂ある楽器を演奏できる奏者はいない。リアン・ハイツ・アルバム最高峰。2004 作。Drumlin)
- *GERRY O' CONNOR: Time To Time a
(4 Men&A Dog のアイルランド屈指のバンド・リーダー奏者のヨ。w. Bill Whelan, Brendan O' Regan, Tommy Hayes, Mairtin O' Connor, Steve Cooney, Camilla Dorsey, Maunus Lunny。CD-R。91 作。Mulligan)
- *TOMMIE CUNNIFFE: Unbuttoned C
(ロスカモン出身のアコ奏者のデビュー作。クリアとクールな近辺の曲が多いが、初めて聴く Tommie のアコはテクニックのことは解らないが、飛び跳ねるリズムの一音一音が絶え間のないメロディーとなって気持ちよく滑空する。楽器は違うがコンサーティナの Micheal O Raghallaigh やホイッスルの Brian Hughes くらい一人職人芸。2007 作。TommiECunniffe)
- *LORCAN MacMATHUNA: Rogaire Dubh B
(素晴らしいシャン・ノース・シンキング・アルバム。今日の伝統志向の極上のアイリッシュ・サウンドをシャン・ノースに採り入れ、ある種芸術的で、彼独自の繊細で叙情的なシャン・ノース・シンキングの世界を創作。w. Helen Lyons {ハープ}, Caoimhin O Raghallaigh {フイドル、ホイッスル}, Mick O' Brien {リアン・ハイツ}

- ブス, Conor Lyons {ハウロン}, Jane Hughes {チロ}. 2007 作。Lorcan)
- *SHAY MICHAEL&MARTIN BLACK:What A Time B
(ゲスト:Mary Black。95 作。Dara)
- *GIORRAIONN BEIRT BOTHER:Giorraionn Beirt Bother B
(ウオーターフォードのゲール話地区のミュージシャンとシンガーによる健やかなアイリッシュセッションとシンキング。セッションの合間で、ゲリック・シンガーの Aine Ui Cheallaigh や Clancy Brothers の Liam Clancy が素晴らしいゲリック・シンキングを披露。CDR。2006 作。Iontaisi)
- *JIMMY CROWLEY:The Boys Of Fairhill C
(コークのトラット・シンガーでブスキ奏者 J. Crowley の 77 年作 {原盤 Mulligan} が CD 復刻。w. Chris Twomey, Johnny Murphy, Mick Murphy, Jolyon Jackson, Micheal O Domhnaill。Produced by Micheal O Domhnaill。77 作。CDCR001)
- *JIMMY CROWLEY&STOKERS LODGE:Camp House Ballads C
(コークのトラット・シンガーでブスキ奏者 J. Crowley の 79 年作 {原盤 Mulligan} が CD 復刻。Christy Twomey, Johnny Murphy, Mick Murphy, Eoin O Riabhaigh, Micheal O Domhnaill, Greg Walsh, Philip Begley。Produced by Micheal O Domhnaill。CDCD002)
- *JIMMY CROWLEY:Some Things Never Change C
(コークのトラット・シンガーでブスキ奏者 J. Crowley の 81 年作 {原盤 Mulligan} が CD 復刻。Bill Whelan, Brian Galnan, Christy Moore, Declan Sinnott, Des Moore, Dessie Reynolds, Eamonn Campbell, Keith Donald, Mandy Murphy, Mick Hanly, Philip Begley, Tommy McCarthy, etc. Produced by Bill Whelan。CDCR003)
- *CHRISTY O' LEARY:The Northern Bridge C
(副題 "Songs & Tunes From Ireland and Scandinavia"。w. Tim O'Leary, Maire Ni Chathasaigh, Chris Newman, Richard Curran。97 作。Old Bridge Music)
- *LIVE RECORDINGS FROM THE WILLIAM KENNEDY PIPING FESTIVAL (2000 作。William Kennedy Piping Festival) C
- *JESSE SMITH:Jesse Smith (Jesse Smith) C
- *TOMMY HAYES:An Ras (91 作。Mulligan) C
- *GERALDINE MacGOWAN & FRIENDS:Reconciliation。94 作。CBM)
- *SEAN McALOON:Stor Piobaireachta C
("Piping From The Archives ~ 1"。Na Piobairi Uilleann)
- *WHITE RAVEN:The Water Is Wide C
(Kathleen Dineen {ソプラノ、ハープ}、Robert Getchell {テナー}、Raitis Grigalis {バリトン} の女性一名と男性二名のヴォーカル・トリオ "White Raven" の 1 枚目はシャン・ノースを含む伝承歌中心の選曲と Kathleen の清楚な美声が光る麗かで雅なヴォーカル・アルバム。2005 作。Blasker Music)
- *RON KAVANA:Irish Ways ¥5780
(CDブック型 4 枚組。副題 "The Story Of Ireland In Song, Music And Poetry"。6 年以上かけて R. Kavana が編纂したアイルランドの古代から今日までの歩みを歌や音楽や詩等で辿ったアイルランドの音楽と歴史の CD と本。122ページの本は紀元前 9000 年から 2006 年までのアイルランドの年表付。2007 作。Proper)

- *KATHLEEN O' SULLIVAN: Born On St Patricks Day A
 (London Lasses の 2 代目魅惑のシンガーの Kathleen の無伴奏。家庭
 でアイリッシュ・トラッド / パラッド に親しむ恵まれた環境もあって選曲の豊
 かさと共に Kathleen のシンギング は他の新人アイリッシュ・シンガーを寄せ付
 けぬほど、柔らかかにコブシが利いて美しく、芯があり孤高。曲目解説
 付。2003 作。Lo La)
- *SEAN O SE: Irish Heritage B
 (w. Davy Spillane, Nollaig Casey, Donal Lunny, Des Moore, Niall
 Martin, Enda Walsh。Outlet)
- *CRUINNIU: Live In Corofin B
 (CDR。2005 年に結成されたという若き 7 人組 {女性 3 名と男性 4 名}
 トラッド・バンド のフレッシュなデビュー作。2006 年 3 月に開かれた Corofin
 Traditional Festival でのライブ盤。2006 作。RRCD003)
- *NORTH GREGG: And They Danced All Night A
 (コークのバリバリのアイリッシュ・トラッド・バンド。Sliabh Luachra のホムル数曲等
 C. Leary のアコをカメにセッションで鍛えたライブ感とジャンプ力ある演奏で
 釘づけにする。Produced by Niall Valley。99 作。Magnetic)
- *THE MAPLE LEAF: The Maple Leaf A
 (副題 "Irish Traditional Music From Boston"。Jimmy Noonan {フル
 ート}, Chris McGrath {フィドル}, Michael Sharrock {ブラスキー}, Ted
 Davis {ギター} のトリオ。2001 作。Windjam)
- *MOZAIK: Live From The Powerhouse C
 (Andy Irvine, Donal Lunny, Bruce Molsky, Nikola Parov, Rens Van
 Der Zalm から成るスーパーグループ Mozaik のデビュー作は 2002 年オースト
 リアでのライブ。2004 作。Hummingbird)
- *ANDY IRVINE: Rude Awakening (91 作。Green Linnet) a
- *ANDY IRVINE: Way Out Yonder A
 (旅するフォーク・シンガー Andy の感性の瑞々しさが発揮された静かな大傑
 作。w. Steve Cooney, Liam O' Flynn, Rens van der Zalm, Maire &
 Cormac Breatnach, Declan Masterson, etc. 2000 作。AK)
- *SKYLARK: Light And Shade (92 作。Claddagh) A
- *MAIRE WALSH: The Red Box B
 (2003 年と 2004 年のアコーディオンのオール・アイルランド・チャン
 ピオン。ダンス曲を中心にした選曲で、確かなリズムに裏打ちされ
 演奏は、酸いも甘いも知ったヴェテラン・アコ奏者の余裕さえ感じ
 させる。2005 作。Owenglen)
- *DAVY SPILLANE: Shadow Hunter (90 作。Tara) B
- *DERVISH: Live At Johnny Fox's A
 (全 14 曲。初期 Dervish のパブでの名ライブ。2006 作。Doonaree)
- *DERVISH: The Boys Of Sligo (デビュー作。Sound) C
- *GIARAN MacMATHUNA'S THE TOUCH OF THE MASTER'S HAND C
 (数十年間、RTEラジオの人気番組 "Mo Cheol Thu" の詩の朗読とアイリッ
 ュ・トラッドがセットの音楽を 16トラック収録の編集 CD。静かに詩の朗読と音
 楽に耳をお傾け下さい。ラストはクリスマスの詩と音楽。音楽は Dordan,
 Liam O' Flynn, Paddy Glackin with Donal Lunny, Rita Connolly,
 Josie McDermott, Kieran Collins, Aine Ni Dhuill, etc. 1995)

/2005 作。RTE)

- *SEAN SMYTH: The Blue Fiddle a
(Lunasa の Sean のソロ。w. Brenda Smyth, Cora Smith, Vinnie Kilduff
, Steve Cooney, Jim Higgins, Charlie Lennon, Mairtin O' Connor
, Brendan O' Regan, etc. 93 作。Mulligan)
- *THE VERY BEST OF IRISH LOVE SONGS ¥3000
(3 枚組セット。48 曲入。2003 作。Pegasus)
- *PADRAIGIN NI UALLACHAIN: Ailleacht (Beauty) A
(アイルランドのヴェテラン・トラッド・シンガーの Padraigin 女史
の本作はゲールによる自作曲集。歴史ロマンや空想的物語等で伝承
歌の美しい薫りを追求したかのような至福のゲーリック・ソング・
アルバム。w. Iarla O Lionaird, Steve Cooney, Laoise Kelly, etc.
ゲール語原詞&歌詞英訳&曲目解説付。2005 作。Gael-Linn)
- *IARLA O LIONAIRD: Invisible Fields ¥1500
(ゲール語の唄の神秘性や叙情性や情感を 高揚した意識の中で抽出
し、Iarla 流の純粋性の高いゲール語の結晶音楽を創作し続ける
Iarla だが、本 3 枚目はその結晶度がかつてなく高い。Iarla にしか
創作できない独自のゲーリック・ソングの世界だ。2005 作。Real World)
- *OSNA: Osna (99 作。Celtic Note) B
- *SEAN O RIADA: Ceol An Aifrin/Aifreann 2 D
(Sean O Riada の“Ceol An Aifrin”{69 年作}と“Aifreann 2”{70 年
作}がデジタル・リマスターにて再発。特殊パッケージ。69/70/2005 作。
Gael-Linn)
- *CLANNAD: Beginnings A
(“The Best Of The Early Years”。クラッドの初期音源からの 2 枚組
編集 CD。全 31 曲。贈り物用かな?2008 作。Music Club)
- *CLANNAD: Magical Ring ¥1500
(ボーナス曲 1 曲含む 11 曲入。特殊パッケージ。83/2003 作。BMG)
- *CLANNAD: In A Lifetime C
(ボーナス曲 8 曲付 2 枚組ベスト盤。全 26 曲。2003 作。BMG)
- *ENYA: The Celts (87 作。WEA) ¥1780
- *ENYA: Watermark (88 作。WEA) ¥1780
- *SINEAD LOHAN: No Mermaid (1998 作。Grapevine) ¥1780
- *FINBAR&EDDIE FUREY: The Dawning Of The Day ¥1780
(先駆的アイルッシュ・トラッド・グループの 68~72 年の音源からの編集 CD。全
20 曲。今聴いても鮮烈。Planxty の先輩格。98 作。Castle)
- *HECTOR ZAZOU: Lights In The Dark C
(ラーサーナ・ファン必聴。ラーサーナに加え、リヴァークのリスト、Katie McMahon、
ジャン・ノース・シンガーであり SSW の Brenda Mayor の女性ゲーリック・ヴァーカル・トリ
オによるケルトの深き神秘性漂う絶句のアルバム。霊的なものさえ覚える
奥深いサウンドと心奪われる魅惑の女性シンキングだ。本作のテーマは「アイル
ランド 聖歌の起源を探る旅。w. 坂本龍一, Carlos Nunez, Peter
Gabriel, Kristen Nogue, Thierry Robin, Hossam Ramzay, etc. 98 作。
フランス Detour)
- *BRINGING IT ALL BACK HOME D
(ご存知 91 年 BBC 制作 TV デビュー・ドキュメンタリー・のサウンド CD で原盤に未発表曲 3 曲加

えた 36 曲収録の 2 枚組。Donal Lunny, Dolores Keane, Hothouse Flowers, Emmylou Harris, Mary Black, Sharon Shannon, Paul Brady, Mary Custy, Luka Bloom, Davy Spillane, Elvis Costello, Micheal O Suilleabhain, Richard Thompson, Waterboys and more!
91/2000 作。Hummingbird)

- *SEAN KEANE: All Heart No Roses (93 作。CBM) C
- *SARAH&RITA KEANE: Once I Loved B
(ご存知 Dolores Keane の叔母の Sarah&Rita のデビュー作がめでたく CD 復刻。姉妹のソロとユニゾンで唄われる北東ゴールウェイ地方のゲール語を含む伝承歌の数々は聴けば聴くほど味わいのある名唱ばかり。
"Sail Og Rua" 他全 11 曲。不滅の名盤。69/2006 作。Claddagh)
- *DOLORES KEANE: There Was A Maid (78 作。Claddagh) B
- *DOLORES KEANE&JOHN FAULKNER
: Broken Hearted I'll Wander (79 作。Mulligan) C
- *DOLORES KEANE&JOHN FAULKNER
: Farewell To Eirinn (80 作。トイツ Wundertute) C
- *DE DANNAN: Hibernian Rhapsody (96 作。Shanachie) a
- *DE DANNAN: Welcome To The Hotel Connemara B
(2000 作。Hummingbird)
- *ALEC FINN: Blue Shamrock A
(廃盤。テ・ダナンのオリジナル・メンバーで屈指のフースキー奏者による唯一のソロ。フースキーとティンホイッスルとのデュエットによるアイルランド哀愁のメロディー集。
"Sally Garden", "The Water Is Wide" ほか全 10 曲。94 作。CBM)
- *SEAN CANNON: The Roving Journey Man D
(70 年代アイルランド・トラッドの名盤。エイツを含むアイルッシュ・ソングの甘みは格別。77 作。Kissing Spell)
- *DEREK BELL: Carolan's Receipt (75 作。Claddagh) A
- *DEREK BELL: Musical Ireland (83 作。Claddagh) A
- *KATHLEEN LOUGHNANE: Harping On B
(今のアイルランドで彼女ほど伝統的アイルランドのハープの奏法を継承し、様々なダンス曲やオカロンや 17-18 世紀のハープ曲を新鮮なアレンジで愛情深く演奏できるハープ奏者はいないだろう。w. Alec Finn, Sean Ryan, Cormac Cannon, Sharon Shannon, Seamus Begley {1 曲素晴らしいノドを披露}, Mary Bergin, Jacqueline McCarthy, Martina Goggin, etc. 2002 作。Reiskmore Music)
- *KATHLEEN LOUGHNANE: Harp To Heart B
(3 枚目。ハンティング・コレクションからのハープ曲と伝承曲からの 15 曲。彼女は独自のアレンジでハープ・ミュージックの定番一曲一曲に息を吹き込むようにスピリット高く、愉快地に上品に厳かに蘇生する。アイルッシュ・ハープの傑作。w. Alec Finn, Cormac Cannon. 2005 作。Reiskmore Music)
- *ANNE-MARIE O' FARRELL・CORMAC DE BARRA: Double Strung C
(もう長年コンビを組んで活動しているクラシック・ハープ・スタイルの名アイルッシュ・ハープ奏者の Ann-Marie と伝統的アイルッシュ・ハープ・スタイルの名アイルッシュ・ハープ奏者の Cormac のハープ・デュエット・アルバム。卓越した両名ハープ奏者が編み上げた音楽は当然格別。選曲にはクラシックの曲も含まれている。一歩先を行くハープ音楽。2005 作)

- *DAVID MUNNELLY:Swing... B
(w. Sharon Shannon, Gavin Ralston, y, Andrew Murray, etc. 2001 作。Hummingbird)
- *DECLAN MASTERSON:Heartland B
(Moving Hearts や Riverdance のハーフ奏者で Andy Irvine と Mosaic や Patrick Street に参加のアイルランドを代表するイアン・ハーフ奏者のすっぴんのアイルッシュから Moving Hearts 風フォーク・ロックから Riverdance 風アイルッシュと東欧音楽の融合音楽まで彼の幅広い音楽性が発揮されたカラフルでエキゾチックなイアン・ハーフ音楽。FRCD05)
- *NIALL O CALLANAIN:Strings&Things C
(アコースティック&エレクトリック・ブラス奏者による多彩なアイルッシュ。w. Maire Bratnach, Mairtin O' Connor, Kevin Shields, Mario Ngoma。2001 作?Peer Music)
- *TEADA:Ceol & Cuimhne a
(彼らはアイルッシュの魔法使い。ゲスト:Grainne Hambly。2010 年アイルッシュのベスト・アルバム当確。2010 作。Compass)
- *MAIREAD NI MHAONAIGH & FRANKIE KENNEDY:Ceol Aduaidh B
(デジタル・リマスター、デジタル・パック{紙ジャケット}83 作。Gael Linn)
- *GAY, CONOR&SEAN McKEON:The Dusty Miller C
(Leo Rowsome を師とする名イアン・ハーフ奏者の Gay McKeon に彼の二人の息子で共にイアン・ハーフ奏者の Conor と Sean も加わったトリオ名義の本作実に豪快なイアン・ハーフ音楽だ。しかもそこに Arty McGlynn が熱のこもったギターで熱風を注ぐ。アイルッシュ・ハーフ・ミュージックの真髄。2005 作。CDGMCK002)
- *JOHN O' CONNELL:The Maid Of Ballingarry A
(60~70 年代に“Singing Session”で活躍したというシュリ・ガール・クラのトラッド・シンガーの本作は Seamus MacMathuna と Diane Hamilton のコレクションを音源に編集された John O' Connor の無伴奏トラッド集。全 15 曲。彼のパートは三つのカテゴリに分類できるという。一つは地方の歌。これは一般的にユーモラス。二つ目はその他のユーモラスな歌で大部分が元気のいい歌。そして三つ目は伝統的スタイルのかしこまった歌。「トラッド・シンキングの最重要作」と評判。P12 のブックレット付。ED001)
- *BARRY GLEESON:I Heard A Bird Dawn ¥700
(イギリスならフォーク・クラブの音楽。ガエラン・フォーク・シンガーの Barry は気心の知れた音楽仲間とあるいは家で様々なハラルドやコミカルな唄そしてイェイツやジョイスの詩や歌等を朗々とまた愉快地にまたお上品に唄ったりする。Kevin Conneff のハウスの伴奏で見事なジャン・ノースを披露もする。これぞアイルッシュ!の大衆歌手だ。P20 のブックレット付。2005 作。Gleeman)
- *WITHIN A MILE OF KILTY C
(フェアナとの県境のリトケラムの北部の町 Kiltyclogher は人口約 150 人の小さな町。この町に集う名うてのフィドル達 6 名 {John Gordon, Ben Lennon, Charlie Lennon, Brian Rooney, Maurice Lennon, Seamus Quinn} の過去 40 年以上の間の音源からの編集 CD。それぞれが凛として個性的。Stockton's Wing の Maurice のみがいちの演奏で独特な風合いのアイルッシュで楽しませる。2005 作。Clo Iar-Chonnacta)
- *ANDREW MURRAY:Hell Or High Water C

(De Danann でウ ォーガを担当したことがあるというインシュボフィン島出身の唄が物凄く上手いシンガーのデビュー作。トラッドの名曲と SSW の唄がほぼ半々。それぞれの物語性のある唄をいいトで朗々とうたう。唄に結構痺れる深さとコがある。w. Gavin Raiston, Aogan Lynch, Geoff Woods, Tim O'Brien, etc. 2005 作。Andrew Murray)

- *DANU: Think Before You Think (傑作。2000 作。Shanachie) a
- *DANU: All Things Considered a
(アイリッシュ・トラッドの最高傑作の一枚。2002 作。Shanachie)
- *DANU: The Road Less Traveled a
(アイリッシュ・トラッドの最高傑作の一枚。2003 作。Shanachie)
- *DANU: Up In The Air (2004 作。Shanachie) a
- *SEAN DOYLE: The Light And The Half-Light a
(元 Solas の John Doyle のソで素晴らしいソを披露していた John のお父さんのアイリッシュ・フォーク・ソング・スピリット漲る味わい深きソ。John Doyle のギター&ウ ォーガを筆頭に Liz Carroll, John Williams, Emer Mayock, Dirk Powell 他の控え目の伴奏がまた泣かせるほど見事。全 15 曲。2004 作。Compass)
- *BEGINISH: Beginish B
(Paul O'Shaughnessy, Paul McGrattan, Brendan Begley, Noel O'Grady. ゲスト: Maighread & Triona Ni Dhomhnaill, Arty McGlynn, Colm Murphy. 98 作。Tara)
- *VINNIE KILDUFF: The Boys From The Blue Hill a
(ティン・ホイッスルの代表作。w. Charlie Lennon, Steve Cooney, Brendan O'Regan, Gerry O'Connor, Tommy Hayes, Seamus Begley, Cora & Breda Smyth. 90 作。Mulligan)
- *DESI DONNELL & MICHAEL McGOLDRICK
: Champions Of The North (Magnetic Music) C
- *PAUL McGRATTAN & PAUL O' SHAUGHNESSY
: Within A Mile Of Dublin B
(元 Altan で現 Beginish のフィドル奏者 P. O'Shaughnessy とトニョール・スタイルの彼の演奏に魅了された屈指のフルート奏者 P. McGrattan のあうんの呼吸に唸られるフィドルとフルートのデュエット。95 作。FoeTain)
- *HORSLIPS: Roll Back ¥3290
(2 枚組ボックスCD。1 枚目はスタジオ録音で 15 曲入。2 枚目はライブ録音で 4 曲とそのライブ映像。久し振りの Horslips は何か丸くなったというか、70 年代の熱っぽさはなくなったが、煮込み味な洪さとコが備わった。歳相応に熟したフォーク・ロック。2004 作。Horslips)
- *JIM MacFARLAND: A Taste Of Tradition C
(ウ ォーガ・シンガーのソ。ギター伴奏 {本人の演奏なら、ギター名手でもある} の 2 曲以外は無伴奏シンキングまたは家族とのアカペラまたは娘 Maria の無伴奏シンキング。ウ ォーガの味わい。P16 の歌詞 & ソング・ノート等のブックレット付。2004 作。Jo-Sem Recordings)
- *KEVIN KEEGAN: The Music Of Kevin Keegan C
(1924 年東コルウェイ生まれで米国ツアー中に米国に移住した Aughrim Slopes Ceili Band {1950 年代活躍} のアコ奏者の個人録音やラジオ音源からの貴重録音集。回転が速いんじゃない? と思えるほどの早

- 弾き。。全 23セット。2004 作。Clo Iar-Chonnachta)
- *SEAMUS TANSEY:King Of The Concert Flute B
 (Charlie Lennon がピアノでお付き合いの録音データ不明のかつての Seamus の演奏が 12セット収録。Seamus の生き生きしたフルート演奏とツボを得た Charlie のピアノの伴奏ということもあろうが、音がえらいいいなあ、と思ったら、「リマスター」と書いてあった。各種ダンスのリズムをきっちり刻みながらも、即興性と気分が反映された飛び跳ねるフルート演奏だ。2004 作。Sound)
- *EOIN DUGNAN:Lumina D
 (ロー・ホイッスルの為に Eoin が作曲した 6 曲から成る組曲。テーマは宗教的なテーマで「誕生、死、復活の魂の旅」とか。w. Gerry O'Beirne {プロデュースでもある}, Liam O Maonlai {ヴォーカル&ピアノ}, Steve Coulter, Maire Breathnach, Liam Bradley, James Blennerhassett, etc. 2004 作。Duigo Music)
- *PADDY KEENAN・TOMMY O' SULLIVAN:The Long Grazing Acre a
 (イアン・パイクス巨匠による情感豊かな揺るぎ無い大作。w. Mary Green, Triona, James Blennerhassett, Greg Sheehan, John Fitzgerald, Tim O'Brien が推薦文を寄稿。2001 作。Hot Conya)
- *MEMORIES OF IRELAND D
 (副題“Songs from the 32 Counties of Ireland”。32 曲入 2 枚組 CD。アイルランド旅行土産的哀愁のアイルランド名曲集。2003 作。Wren)
- *MUIRIS O SCANLAIN:Teanam Ort C
 (アイルッシュ・ファン必聴! Muiris はアイルランドのデングル出身でオーストラリア在住のゲリック・シガー。アイルッシュのみならずオーストラリアのトラッドも、またゲリックのみならず英語の唄もうたうが、一聴 Brendan Begley を想わず柔らかなシンギングはゆったりと郷愁漂う主にゲリック・トラッド。絶句のアイルッシュ。2003 作。DCMS0103)
- *SEAN GARVEY:The Bonny Bunch Of Roses C
 (ゲール語と英語のトラッドの収集家でシガーかつ名ギタリストの S. Garvey の 2 枚目はデビュー作同様彼の誠実さとあたかも伝承歌に蓄積した深みや愁いが素直に滲み出た緩やかな感動作。彼独特な叙情と年輪を感じさせる深い味わいは格別。w. Josephine Marsch, Eoghan Garvey, Liam Lewis, etc. 2003 作。Harry Stottle)
- *FROMSEIER ROSE:Contradiction C
 (デンマークの女性ケルティック・フィドルの Ditte Fromseier とユロ・ジヤスやラテン音楽に造詣の深い米国人ピアニスト Michael G. Rose とのケルティック・デュオ。ゲスト:Niamh Parsons。。Niamh がヴォーカルを取る 3 曲“After Aughrim's Great Disaster”, “Crazy Man Michael”, “Blantyre Explosion”は息が止まる。ライナー・ノーツ by Morten Alfred Hoirup。2003 作。Nunora)
- *THE RED HAT BAND:Covering Ground B
 (CD-R。ヨークで生まれた Flook の Brian Finnegan&John Joe Kelly がメンバーの一応アイルッシュ・バンドと言えようが、約半数はシガーの Deirdre Maynihan の唄をフィーチャーしたアイルッシュな軽快さと土臭さ香る SSW アルバム的で半数は Deirdre のフィドルと Diarmaid Moynihan のイアン・パイクスと Brian のフルートをフィーチャーしたブルターニュの曲を含むセッション曲。2003 作。Red Hat Music)

- *TOM CUSSEN&TONY HOWLEY
:There's Always Room In Our House B
(ハングョーとサクスのアイリッシュ。Shaskeen なんかで活躍のヴァン・ハングョー奏者の Tom と Desi Donnelly との競演等マンチェスター周辺で活動する異色のサクスの Tony とのな—あんかくすぐったいアイリッシュ。何かコミカルでホーム・パーティーっぽいおめでたい音楽。ゲスト:Geraldine Cotter。2003 作?CHCD1)
- *CAITLIN MAUDE:Caitlin A
(1982 年に若くして亡くなったコネラの異色のゲリラック・ソング—で詩人の Caitlin の 76 年作が CD 復刻。すべて無伴奏。彼女の孤高故のどことなく孤独感漂う美しいゲリラック・ソングの素晴らしさは言葉では言い表せない。心翔ぶ。76/2003 作。Gael-Linn)
- *SEAN O RIADA AGUS CEOLTOIRE CHUALANN
:Ceol Na nUasal (67 作。Gael-Linn) A
- *SEAN O RIADA, SEAN O SE, CEOLTOIRE CHUALANN:Ding Dong A
(67 作。Gael-Linn)
- *CHIEFTAINS:The Bells Of Dublin (91 作。BMG) A
- *CHIEFTAINS:Another Country (92 作。BMG) A
- *CHIEFTAINS:The Celtic Harp (93 作。BMG) A
- *CHIEFTAINS:Live From Dublin A
(副題“A Tribute To Derek Bell”。2005 年。BMG)
- *PADDY MOLONEY・SEAN POTTS:Tin Whistles (73 作。Claddagh) A
- *PADDY MOLONEY:Silent Night A Christmas In Rome a
(99 作。Wicklow)
- *KEVIN CONNEFF:The Week Before Easter (88 作。Claddagh) A
- *MICHAEL TUBRIDY:The Eagle's Whistle (78 作。Claddagh) A
- *DESSIE KELLIHER:Banjoed C
(「やっほー」の掛け声でもかけたくなる多彩なリズム飛び交う楽しいハングョー音楽。w. Mike McGoldrick, Peter Browne, Tony Byrne, Gary O'Brien, Padraig O Se, Colin Farrell, etc. 2004 作。Dessie Kelliher)
- *MEABH O' HARA&CONOR BYRNE:Bavan B
(2000 年の TG4 Young Traditional Musician 賞受賞の女性フルーター Meabh と Christy Moore の甥でフルト奏者の Conor のデュオ。決してテクの品評会に走らない共感し合うアイリッシュ的変拍子を要所要所に散りばめた憎い憎いプレイ。見事!。2003 作。O'Hare&Byrne)
- *NOEL LENAGHAN:No Trouble At All B
(ベルファスト出身で長年ゴールウェイで音楽活動をしているフルト奏者でソング—の爽やかアルバム。フルトをフィーチャーしたインスト曲と歌ものがほぼ半々に収録された本作はインスト曲では聴き親しんだアイリッシュの名曲等を決して慌てず急がずの緩やかな演奏で心を和ませ、トラッド—を中心にした歌もの {ゲ—リックも 1 曲} ではアイリッシュ—オールド—タイム—ブリティッシュ的ニュアンスの広い意味でのフォーク/ルーツ・ミュージックに根ざした肩肘張らぬ素朴で真摯な唄で心和ませてくれる。2003 作。Long-eared Owl)
- *FALLEN ANGELS:Fallen Angels C
(女性アカペラ 5 人組。ゲ—リックを含むアイリッシュからスコットランド—のマウス・ミュージ

ック、英国トラッド、カガのかて & Anna に Pete Seeger や Utah Philips 等の
のアメリカ・フォークそして“Over the Rainbow”等を5人のソロと合唱等で
美しく聴かせる。全14曲。92作。Magnetic Music

- *MAIRTIN O'CONNOR: Rain Of Night a
(アコの魔術師 M. O' Connor の本作はアイリッシュの小技大技を駆使した空想的なアコ音楽。名人芸。2003作。Mairtin O' Connor)
- *MARINA MEYLER: Champion Of Ireland "Banjo" ¥2180
(ハンゾー・チャンピオンによる模範演奏集。2003作。Connoisseur)
- *GAELIC ROOTS D
(ホストン大学での録音集。2枚組。Liz Carroll, Paddy Keenan, Seamus Egan, John Williams, Cathal Hayden, Natalie MacMaster, Tony Cuffe, Jackie Daly, Maire O'Keefe, Daithi Sproule, James Kelly, Johnny O'Leary, Joe Derrane, Robbie Hanna, Gerry O' Connor, Jerry O' Sullivan, Eileen Ivers, James Keane, Buddy MacMaster and more! 97作。Kells)
- *A WOMAN'S HEART "A Decade On" B
(Sinead O' Connor, The Corrs & Chieftains, Marcia Howard & Mary Black, Frances Black, Sinead Lohan, Eva Cassidy, Maighread & Triona, Cara Dillon, Mary Black, Juliet Turner, Sharon Shannon & The Wild Bullocks, Cathie Ryan, Dolores Keane & Tommy Sands & Vedran Smailovic, Eleanor McEvoy, Dolly Parton with Altan, Mary Coughlan & The Cafe Orchestra, Maura O'Connell, Alison Krauss による全18曲。2002作。Dara)
- *PACKIE BYRNE: Donegal & Back B
(トニール出身のむしろ英国で著名なトラッド・シンガーでホイッスル奏者の Cecil Sharp House 等英国での録音。収録年は64、74、75、76年。“The Shore of Lough Erne”, “Rambling Irishman”等全22曲。温厚な柔らかいシンギングは親しみやすい。2002作。英 Veteran)
- *IRISH FAVOURITES ¥1380
(Tony MacMahon, Frankie Gavin & Charlie Lennon, Kevin & Seamus Glackin, Mairead Ni Mhaonaigh & Frankie Kennedy, P. J. Marcus Hernon and more。全16曲。2001作。Forever Gold)
- *IRISH SESSIONS ¥1380
(De Dannan, Clannad, Brian Hughes, Mary Black & General Humbert, Dolores Keane, Paddy Glackin, Paul Brock & The Moving Cloud and more。全18曲。2001作。Forever Gold)
- *NIALL KEEGAN: Don't Touch The Elk B
(フルート・ソロ。選曲はケリー・ハント在籍時やセッションで覚えた数々のアイリッシュに加え Andy Cutting {2曲}, Emile Benoit {ニューファンドランド}, Serge Desanay {フランス} 等だが、ジャズのフリー・フォームな即興性とスウィング感をキープしたアイリッシュ・ダンス音楽とでも表現できる音楽。w. Micheal O Suilleabhain, Verena Cummins, Chris Kelly, Sandra Joyce。99作。Elk)
- *IRISH FOLK FAVOURITE ¥2880
(お買い得の4CDセット。Kilfenora Ceili Band {34曲!}, Mick Moloney {16曲}, Sweeney's Men {13曲}, Finbar & Eddie Furey {14曲}、

- Dubliners{13 曲}、Grehan Sisters{11 曲}。98 作。Castle)
- *EIGSE DHIARMUIDIN B
 (シガーでジャーナリストだった故 Diarmuid O Suilleabhain を偲んで毎年開かれているコンサートのライヴ。Maighread Triona&Micheal O Domhnaill{3 人兄妹唄う“An Saighdiuir Treigthe”に涙...}, Kevin Grackin Paddy Grackin&Micheal O Domhnaill, Mary MacNamara, Connie O'Connell Hammy Hamilton&Tom Stephens, Seamus Begley&Jim Murray, Peador O Riada Eamonn McGivney &John Kelly, Noel Shine&Mary Green, John&Pip Murphy, Sean O Liathain, Maeve Donnelly, Voice Squad and more。アイルिश真髓ライヴ。全 17 曲。詳細解説付。2001 作。Clo Iar-Chonnachta)
- *THE ALIAS ACOUSTIC BAND:1798—1998 Irish Songs Of Rebellion, Resistance&Reconciliation D
 (2 枚組 CD。全 37 曲。98 作。Proper)
- *JOSEPHINE MARSCH BAND:I Can Hear You Smiling A
 (名実と共にアイルランドを代表する女性3人奏者 Josephine の本作は Sharon Shannon 級のアイルिश的素晴らしさ。アイルिशの心溢れる傑作。2001 作。J. Marsh Band)
- *NOEL SHINE&MARY GREENE:Unspoken Lines C
 (アイルランドで信望の厚い男女フォークデュオ。Mary Black のヒットで有名な Mary Greene 作“Wrap You Up”を含む最新作は唄の本来の温もりや肌触りがそのままナチュラル・バックされた心に深く残るもの。穏やかな風のようにゆったりとした Mary のヴォーカルはどれも心からのもの。w. Mairtin O' Connor, Declan Sinnott, John Spillane, Pat Crawley, etc. 2001 作。Tigerdog)
- *CHRISTY MOORE:The Box Set 1964-2004 ¥4580
 (多数の未発表&貴重音源含む 101 曲収録 6 枚組。2004 作。Columbia)
- *CHRISTY MOORE:Unfinished Revolution (WEA) ¥1780
- *CHRISTY MOORE:King Puck (93 作。Grapevine) B
- *CHRISTY MOORE, DONAL LUNNY&JIMMY FAULKNER
 :Live In Dublin (78 作。Tara) A
- *CHRISTY MOORE:Ride On (84 作。Warner) ¥1780
- *CHRISTY MOORE:Ordinary Man (85 作。Warner) ¥1780
- *CHRISTY MOORE:Voyage (89 作。WEA) ¥1780
- *SKARA BRAE:Skara Brae (71 作。Gael Linn) B
- *PLANXTY:Planxty (73 作。Shanachie) a
- *PLANXTY:The Well Below The Valley (73 作。Shanachie) a
- *PLANXTY:Cold Blow And The Rainy Night (74 作。Shanachie) a
- *PLANXTY:Words&Music (83 作。Shanachie) a
- *RELATIVITY:Gathering Pace a
 (Michael O Domhnaill, Triona Ni Dhomhnaill, John&Phil Cunningham による Relativity の 87 年作。Compass)
- *PATRICK STREET:Compendium a
 (“The Best Of Patrick Street”。全 14トラック。2000 作。Green Linnet)
- *THE SEVILLE SUITE B
 (Bill Whelan, Andy Irvine, Liam O' Flynn, Donal Lunny, Nollaig

- Casey。92 作。Tara)
- *AINE FUREY: Sweet Summer Rain A
(アイリッシュ・トラッド・ファンよりブリティッシュ・フォーク・ファンあるいはかすかにケルトの
雰囲気薫る女性シンガー・ファンにお勧めのたおやかな女性シンガーのテレビ
デビュー作。Finber Furey の娘さん。Aine のヴォーカルはケルティックな桃源郷的音
作りとともに肌と心に優しい…。Aine は Sandy Denny と Anne
Briggs のファン。99 作。Celtic Connections)
- *CRAOBH RUA: If Ida Been Here, Ida Been There A
(ベルファストの 4 人組の 4 枚目。2000 作。Lochshore)
- *THE ABBEY CEILI BAND: Beal a' Ghleanna (2002 作。Glanlea) A
- *THE BOFIELD CEILI BAND: 100 Years A Growing A
(メイヨーのボフィールドの 100 年の歴史を持つケリー・バンドの結成 100 周年記
念アルバム。Produced by Peter Browne。2000 作。Hummingbird)
- *MARINA CASSIDY: Listen A
(女性クラシック・ハープ奏者でシンガーの M. Cassidy による Carolan 3 曲を含
むアイリッシュ・ソング & ロケーイを中心にした心休まる音楽。ティー・タイム向きか
しらん? 全 19 曲。98 作。Harpebeat)
- *JOHN REGAN: Let Down The Blade A
(数々のケリー・バンドやセッションでの百戦練磨のアコ奏者 J. Regan によるリ
ズム感バッチリのパワフルなアコースティック・アルバム。w. Paddy Glackin & Mary
Corcoran。全 19 曲。99 作。自主制作)
- *PHIL CALLERY: From The Edge Of Memory A
(Voice Squad の P. Callery のソロ。アイリッシュというよりブリティッシュ的気品
とリズム漂うシンキングで、気持ちよく酔わせる。w. Liam O' Maonlai,
Brian Kennedy, Steve Cooney, Dermot Byrne, Frankie Lane, etc.
99 作。Tara)
- *CARMINA: Weather In The Heart B
(ご存知 Donal Lunny のデビューによるコンテンポラリーな女性 SSW アルバム。シルキ
ーなアイリッシュ・サウンドとジヤジーなサウンドとがミックス。Carmina のヴォーカルはジ
ャールを超えた魅力がある。w. D. Lunny, John McSherry, Laoise Kelly,
etc. 98 作。Rhiannon)
- *MARY STAUNTON: Bright Early Mornings B
(メイヨー出身のアコ奏者であり優れたトラッド・シンガーだ。13 曲中 5 曲でのヴォ
ーカルは Dolores Keane っぽい。w. Sharon Shannon, Alec Finn, Frankie
Lane, Steve Cooney, Matt Crannitch, etc. 98 作。Fuschia Music)
- *ARCADY: After The Ball (ヴォーカル: Frances Black。91 作。Dara) B
- *ARCADY: Many Happy Returns B
(ヴォーカル: Niamh Parsons。96 作。Dara)
- *SKIRM & DEZI DONNELLY: Welcome C
(副題 "Live in Hamburg"。95 作。トイムagnetic)
- *JOHNNY DUHAN: Family Album (90 作。1st. Round Tower) B
- *JOHNNY DUHAN: Just Another Town (2nd. Bell) C
- *JOHNNY DUHAN: Don Quixote (3rd. Bell) C

[CD/クレア地方の音楽]

- *MARY MacNAMARA: Traditional Music From East Clare A

- (w. Martin Hayes, PJ Hayes, Seamus Quinn. 94 作。Claddagh)
- *MARY MacNAMARA・ANDREW MacNAMARA:Open Hearth(MAC001) B
 *THE LAHAWNS:Live At Winkles B
 (Andrew McNamara, Breda Smith, Jimmy Higgins, Jim Corry, Kevin Hough の Lahawns のライヴ。97 作。Lahawns Music)
- *MARY CUSTY・EOIN O'NEILL:The Ways Of The World D
 (w. Kevin Griffin, Steve Wickham, Davy Spillane, Tommy Hayes 他。1991 作。Celtic Music)
- *SOCKS IN THE FRYING PAN:Socks In The Frying Pan B
 (「フライパンの靴下」を名乗る野郎三人＝Shane Hayes [アコ]、Fiachra Hayes [フィドル]、Aodan Coyne [ギター、ヴォーカル]＝の変化球多数、変幻自在なアイルッシュの、何とも楽しいこと。おどけた音楽は凄技多数の滅茶苦茶凄い演奏。アコが、フィドルが、ギターが躍りまくる。彼らはクリアのグループだが、音楽を聴く限りでは、クリアの伝統音楽風ではない。オール・アイルランド的ダンス音楽を材料にフライパンで料理して遊んで楽しむ風。そんなダンス曲の合間に Aodan の見事な唄が入る。この Aodan のシンキングが嘘みたいにかりっとして素晴らしい。お笑いと言真面目とが同居した得した気分のアルバムだ。飛び跳ねる演奏は並じゃない！2013 作。Socks In The Frying Pan)
- *IRISH TRADITIONAL CONCERTINA STYLES
 - Twelve Great Players From the 1970s (74 作。Free Reed) B
- *TONY MacMAHON:Tony MacMAHON A
 (ご存知、クリアのミルトン・マヘイ出身で初代 Bothy Band のメンバーでもあった名アコ奏者の T. MacMahon の 72 年のデビュー作。72 作。Gael-Linn)
- *TONY MACMAHON:MacMahon From Clare A
 (T. MacMahon の 2 枚目。共演者は Joe Cooley, Seamus Connolly, James Kelly, Barney McKenna, Peadar Mercier, Liam O' Maonlai。2000 作。MacMahon)
- *HELEN HAYES:Today, Tomorrow & On Sunday B
 (Martin Hayes の妹さんでトラッド・シンガーの Helen Hayes のトラッド・シンキング・アルバム。終始、Martin Hayes&Dennis Cahill が空気のような演奏で、Helen の唄たちを優しく包んでいる。w. Martin Hayes&Dennis Cahill, John Williams。2008 作。Helen Hayes)
- *PADDY MURPHY:In Good Hands B
 (クリアのコンサーティナ音楽の歴史的名盤。オール・アイルランドの第一回目のチャンピオンでアイルッシュ・コンサーティナをクリアで広めたコンサーティナ名人 P. Murphy [1913～1992] の 1958 年から 1980 年代の音源 [自宅やパブ等で収録] からの 28トラック。Produced by Peadar O'Loughlin&Gearoid O hAllmhurain。2007 作。Celtic Crossing)
- *GEAROID O hALLMHARAIN
 :Traditioal Music From Clare And Beyond B
 (コンサーティナ奏者でクリア音楽研究者の Gearoid 氏によるクリア音楽の名盤。ゲスト:Peter O'Loughlin, Martin Hayes, Paddy Canny, Janet Harbison, etc. P20 のブックレット付。96 作。Celtic Crossings)
- *GEAROID O hALLMHARAIN & PATRICK OURCEAU:Tracin' B
 (back in stock。副題"Traditional Music From The West Of

- Ireland”。99 作。Celtic Crossings)
- *LAUREL MARTIN:The Groves a
 (アイルランドの伝統音楽の CD 付楽譜“Forget Me Not”の編纂者 {クレア出身のフィドル奏者 Seamus Connolly との共著} で米国人女性アイルッシュ・フィドルの Laurel の本デビュー作はクレアのフィドル・ミュージックと伝統的アイルッシュ・フィドル・ミュージックの最良の部分をデリケートに保持し静かな名作。2006 作。Laurel Martin)
 - *DAN POSSUMATO:Land Of Sunshine A
 (セント・パトリックス・デイが誕生日の米国ピッツバーグ出身だが、音楽はクレアの空気たっぷり。本作はパブや自宅で好きな音楽仲間とセッションして楽しむライブの音楽で大半はハンズ・オン又はギターとのセッションを軸に進行して行く。セッション相手は Jerry Mulvihill {ハンズ・オン}, Quentin Cooper {ハンズ・オン、ギター他}, Allan Wallace {ギター} のクレアのトップ・プレイヤー達。クレアの空気たっぷりのアイルッシュだ。2006 作。Dan Possumato)
 - *RONAN BROWN AND PETER O' LOUGHLIN:The South West Wind B
 (副題“Traditional Music From County Clare”。Claddagh)
 - *PADRAIG RYNNE:Bye A While C
 (クレアからスキップ気分でのデビューの鮮やかなコンサティナー・ミュージック。w. Tola Custy, Arty McGlynn, John Jo Kelly, John&Paul McSherry, Mirella Murray, Kevin Dorris, Donal O' Connor。Padraig Rynne)
 - *TURLOUGHMORE CEILI BAND:Seven Streams C
 (ご存知 Denis Liddy 氏率いる女性と男性が半々の 10 名のクレアで人気のケリー・バンドの 2 枚目。2005 作。Tig Na Coille)
 - *TOMMY PEOPLES:The Iron Man a
 (with Daithi Sproule。76 作。Shanachie)
 - *TOMMY PEOPLES&PAUL BRADY:The High Part Of The Road a
 (76 作。Shanachie)
 - *TOMMY PEOPLES:Waiting For A Call a
 (約 20 年振りに目の目を見た Alec Finn のデビューの 85 年頃録音の本作は Alec が即興的にサポートした清々しいアイルッシュ・フィドル・ミュージック。ゲスト: Donal Lunny, Sean Potts。2003 作。Shanachie)
 - *THE KILFENORA CEILI BAND:Live In Lisdoonvarna B
 (熱狂的ライブ。バンドの本体は 1870 年に創設された鼓笛隊だったので、バンドの歴史が P7 にわたって綴られている。2002 作。Dolphin)
 - *PEGGY McMAHON:The Parting Way Of Time D
 (副題“Traditional Singing From West Clare”。伝統音楽に囲まれて育った Peggy ばあさんの無伴奏民謡集。お父さんやおばあさん、それに友達から習った唄を耳元で唄い聴かせるように優しくまた生き生きとシンキングする。全 14 曲。P12 のブックレット付)
 - *JOHNNY McCARTHY:Solo Run B
 (副題“Traditional Music From The Capital Of Clare”。w. Alph Duggan。2002 作。Twin)
 - *MICHO RUSSELL
 :Traditional Irish Music From County Clare C
 (CD-R。76 作。Celtic Music。正規盤)
 - *SHASKEEN:Atlantic Breeze B

- (“Traditional Irish Music&Song”。Faoileann)
- *SHASKEEN:25th Silver Jubilee Collection B
(全 22 曲入。95 作。G. T. D. Heritage)
 - *SEAMUS WALSH:Clare Accordion B
(w. Mark Kelly, Brendan Larrissey, Jimmy Higgins, Tommy Hayes,
etc. Geol Music)
 - *RE-JOYCE “Tunes And Songs From The Joyce Collection” B
(1909 年にリムリック出身の P. W. Joyce によって編纂された“Old Irish
Folk Music And Songs”からの選曲。Jackie Daly, Maire O’Keeffe,
John Faulkner, Donal O’Connor の 4 名グループによるダンス曲と唄の
数々はアイリッシュのコアの味わいそのもの。リムリック周辺の古きアイリッシュが今
蘇る。2003 作。Rejoyce)

[CD/IRELAND, SCOTLAND 他]

- *SHANTALLA:Shantalla C
(Helen Flaherty をヴォーカルに据えたアイリッシュ&スコティッシュ・バンドのデビュー
作。デビュー作にて既に偉大。ロングセラー中。Wild Boar Music)
- *TELYN Y CELT – TRAD HARPS C
(Wales, Ireland, Scotland, Bretagne のケルト圏のハープ奏者の編集 CD。
収録順に Corrina Hewat, Laoise Kelly, Meinir Heulyn, Sileas,
Gwenael Kerleo, Crasdant, Maire Ni Chathasaigh&Chris Newman
, Delyth Jenkins, Cormac De Barra, Dominig Bouchaud, Robin
Huw Bowen, Wendy Stewart, Alison Kinnaird, Rhes Ganol, Gwenola
Ropars, Grainne Yeats, Ar Log, Cormac De Barra with Anne-
Marie O’Farrell。2004 作。Sain)
- *DIAMOND MOUNTAIN SESSIONS PRESENTS... ¥1000
(featuring Natalie Merchant, Steve Earle, The Waifs, Declan
O’Rourke, Pauline Scanlon, Ger Wolfe, Sharon Shannon, Rosey,
Damien Dempsey, Sinead O’Connor, Siobhan Parr, Mundy, Mary
Shannon {収録順}。全 13トラック。2004 作。Daisy)
- *CELTIC JOURNEY“Gentle Breeze” ¥1480
(Kevin Crawford, Joanie Madden, Matt Molloy&Sean Keane, Seamus
Egan, Joe Burke, Kornog, Frankie Kennedy&Mairead Ni Mhaonaigh,
Jack Coen, Deanta, Jerry O’Sullivan。全 13 曲。99 作。Eureka)